

地球のいのち、つないでいこう

私たちは生物多様性に配慮しています



熊谷組グループ CSR報告書2012



CONTENTS

トップメッセージ	1
特別報告 東日本大震災からの復興に向けて	3
熊谷組のCSR	5

信頼を築く	7
誠実なものづくり	15
社員力の充実	25
特集 クマさんの環境教室	29



—人と地球の未来を考える—



熊谷組



大転換期を迎えて

——『大更新時代』に挑む、熊谷組の覚悟と挑戦



代表取締役社長

大田 弘

大震災へのお見舞い

昨年発生した東日本大震災により、多くの方々被災され、生活の基盤となる住宅やさまざまな施設が失われました。厳しい生活環境の中で、大変なご苦労をしておられることと存じます。改めまして、被災された皆さまにお見舞い申し上げます。

昨年は、震災に始まり、台風・集中豪雨、豪雪など多くの自然災害に見舞われた年でした。日本という国土の地理的環境の厳しさ、そして脆弱な社会基盤の上で日常生活や企業活動を行っていること、自然の持つ圧倒的な力を再認識いたしました。改めて人々の生活や経済活動を守り、安全・安心な社会をつくるという建設業の担う役割の重要性を痛感した1年間でした。

そのような中で、緊急事態にあたり、全社一丸となった復旧対応、一致団結した支援活動は当社の底力が発揮された結果であり、数多くの困難を克服して、復旧・復興活動の一翼を担うことができたと考えております。

【建設業界としての課題】

社会の変化への対応

我が国の最優先課題となっている東日本大震災からの速やかな復旧・復興は、建設業界としても最優先で対応すべき課題であり、熊谷組も技術力やソフト面のノウハウを発揮して、引き続き貢献してまいります。

また、地震や洪水などの自然災害への備えを全国的規模で見直したり、高速交通基盤の整備など活力ある国土・地域づくりに欠かせない成長促進型の公共事業の重要性が再認識されており、これらの分野にも積極的に取り組んでまいります。

一方、技術者・技能者の不足などの課題も顕在化しており、短期的な対応のみでなく、働く人にとって魅力ある産業となるよう、さらに積極的に取り組んでいかなければなりません。

【発信力の強化】

現場におけるコミュニケーション

東日本大震災を契機として、社会インフラが果たした防災機能を評価する動きが始まっており、こういった動きに対応して、建設業界として社会に対してもっと情報の「発信力」を高める必要があります。私たちは現場を持っているという強みがありながら、地域の方々とのコミュニケーションを通じて、社会インフラの最終顧客である利用者に対して、事業の必要性などの理解を得るような活動がまだまだ足りないと痛感しています。そうすることを通じて、「非常時にも頼りにされる産業」として広く認知されるとともに、『国土の防人』としての役割を果たしていかなければならないと考えます。

【歴史的な大転換期】

覚悟と挑戦

今日の状況は、この50年間にわたって享受してきた豊かさを持続することが限界に達し、過去の成功体験を超えた新たな道を模索する歴史的局面、すなわち、大きな転換期にあるといえます。

経済環境としても、円高、デフレ、国内産業の空洞化、エネルギー危機、欧州発の金融危機、日本経済特有の課題である人口の減少、高齢化に直面しています。

これから日本における社会インフラ整備は、トンネルや橋の修繕などの『大更新時代』に入ります。ダムやトンネルなどの大規模な構造物を新たにつくることから、自然と調和した維持、更新による施設の長寿命化がメインになるように、インフラ整備のあり方が大きく変わっていくことになります。

いずれ直面することはわかっていたことではありますが、先行きが全く不透明な時代になって、混迷、困惑が深まっております。こういう時こそ、覚悟を決めて、怯むことなく挑戦する。まずはやってみることで新たな道を模索し、将来を切り開いていかなければなりません。

そういった中で熊谷組グループにおいて道路工事を中心に行うガイアートT・Kは、2011年7月から長野県軽井沢町に位置する、全長約10kmの一般自動車道「白糸ハイランドウェイ」の事業運営を開始しました。今後需要が急増する道路施設の維持管理や修繕事業への新たな取り組みに役立てることを狙いとしています。

【建設業の使命】

不動の姿勢を貫く

建設業は依然として日本の安全と安心を支える代表産業であります。我々は50年、100年後に評価されるものを提供しています。企業人としてのスパンを超えた先に評価が待っているわけです。したがって、逆風が吹くときも強い誇りと決意を持って前進しなければなりません。追い風にも奢ってはなりません。不動の姿勢を貫き、次世代に襷を繋ぐ、次世代に託す、建設業はそんな「とてつもない使命感」によって成り立っていることを誇りに思い、前進を続けます。

【環境・品質への取り組み】

協力会社と一体の活動

昨年夏の電力不足に端を発して、省エネルギー、再生可能エネルギーなど環境に対する関心がいつそう高まっております。当社は、企業活動のあらゆる場面において、地球環境に配慮する活動を協力会社と一体となって取り組んでまいります。

また、お客様、社会の要求する品質水準は我々の改革を超えるスピードで高くなっております。「誠実営業、

誠実施工、誠実フォロー」「報告・連絡・相談」などの基本動作を徹底し、「堂々とした誠実なものづくり」を合言葉に、「お客様に感動を」を実現してまいります。

そのためにも当社の持ち味である「明るく元気」を忘れず、「活き活き職場」を目指します。

【おわりに】

安全施工と法令遵守

おわりに、2011年度には重篤な災害の発生はないものの、休業災害の件数が増加するなど、安全に関しては課題が残る結果となりました。“現場に足を運び”、“現物を確認し”、“現実を目で見る”の「3現主義」を徹底し、安全施工の再構築を図ってまいります。

法令遵守は企業存続の大前提であります。企業不祥事のニュースはあとを絶ちませんし、最近では「反社会的勢力との関係遮断」などが重点テーマとなっています。常に原点に立ち返り、日々の行動を確認し、「お客様から信頼され、評価される企業」を目指してまいります。



台湾の現場視察



作業員への訓示

東日本大震災からの復興に向けて

2011年3月11日に発生した東日本大震災。熊谷組は、地震発生直後から懸命な復旧活動を開始し、さまざまな方々との絆を感じながら復興活動を進めてきました。震災から学んだ教訓を噛み締めながら、これからも引き続き復興の長い道のりをともに歩みたいと考えています。

仙台空港が6カ月で震災前と同水準へ空の大動脈完全復旧!

【仙台空港】

大津波に襲われ甚大な被害を受けた仙台空港。当社は、震災直後より、全国から応援に駆けつけた社員や協力会社とともに昼夜にわたり復旧作業に取り組み、4月13日、被災からわずか1カ月という異例のスピードで国内線の運行を再開。その後も当社関係者の一丸となった作業により、空港機能が全面復旧し、9月25日、国際線定期便の運行再開となりました。これを受けて、同日、同空港内でセレモニーが開催されました。



セレモニーの様子



完全復旧した空港

【仙台空港アクセス線】

大津波で仙台空港駅の1階や滑走路をくぐるトンネル部は完全に水没し、がれきで埋まりました。仙台空港アクセス線（仙台駅-仙台空港駅）も、列車運航の頭脳である運輸指令室、通信指令室、軌道構造物等の主要施設が壊滅的被害を受け、全面運休に至りました。当社では、がれきの撤去から着手し、復旧作業を進め、10月1日、全線で営業運転を再開しました。



半年ぶりに走る電車

夏の節電

2011年の夏は、電力供給不足に対応するため、政府の「ピーク時間帯における使用最大電力の抑制要請」を念頭に、本社、全国の支店・営業所（海外を除く）で以下のとおり節電対策を実施しました。

1. サマータイム制の導入
 2. ノー残業デーの設定
 3. 夏季休暇の延長
 4. 就業時間の短縮
- さらに、施工現場では、
5. 電気使用量の大きい作業の時間変更
 6. 設備・機器の充電時間変更
 7. 高効率照明への切り替え
 8. 昼休み時間変更

なども行いました。

その結果、ピーク時使用電力を抑制し、東京電力管内では24.0%、東北電力管内では47.3%の使用電力を削減することができました（P23参照）。

2012年の夏も電力供給不足に備え、全社的に節電活動を実施していきます。

放射性物質除染の取り組み

当社は、日本原子力研究開発機構の公募（内閣府委託事業）により採択された「平成23年度除染技術実証試験事業」を2011年12月より福島県大熊町内で行い、放射能汚染土壌の放射能濃度を1/10レベルにまで低減できることを確認しました。

また、2012年2月、環境省より緊急除染実施業務の事業者選定があり、落葉等の減容化、排水の処理方法、除去土壌等の保管方式などを企画提案に盛り込み採用され、大熊町で公的施設の緊急除染業務を実施しました。



除染プラント全景（SRS：スーパーサイクロンシステム）

伊東豊雄氏設計

（共同設計：桂英昭氏+末廣香織氏+曾我部昌史氏）の「みんなの家」を施工しました

2011年10月、仙台市宮城野区の仮設住宅で、住民が集まってくつろぐことができる共同施設「みんなの家」を当社が施工しました。

仮設住宅の現状は、決して避難生活者がくつろいで過ごせる場所ではないため、皆が集まり、くつろぎ、語らう場所を被災地に提供したいという願いで、世界的に活躍する建築家であり、くまもとアートポリス・コミッショナーでもある伊東豊雄氏と、アドバイザーの桂英昭氏、末廣香織氏、曾我部昌史氏の4人の建築家を中心に共同設計を行い、宮城県仙台市宮城野区の仮設住宅に、「みんなの家」を提案しました。

この趣旨に賛同した熊本県、熊本県内建築関係団体と同県湯前町、水上村のご支援により、材料の木材などが提供されました。

仮設住宅地には、主に津波被害のあった宮城野区岡田地区の住民の方達が暮らしています。プレファブではなく、木造のぬくもりを感じながら、みんなでゆつくり語り合える場としての「みんなの家」が完成しました。

「みんなの家」は、利用者、行政、設計者と施工者が一緒になってつくる、というコンセプトがあり、当社施工に加えて、仙台市や仮設住民の方々を交えて、九州や東北の学生や建築家が、「建築」をつくることに参加しました。



みんなで一緒につくりました 完成した「みんなの家」

10月26日の落成式の後には住民主催の芋煮会が開かれました。住民の一人が、以前住んでいた木造の家のぬくもりを思い出したと涙を流しながら喜んでくださった姿が印象的でした。これまで家に閉じこもりがちだった方が芋煮会の準備のために出てきて、手伝っている姿も見られました。

「みんなの家」は、竣工後、住民の皆さんに親しまれ、積極的に使っていただいています。住民の皆さんのゆつくり語らえる場所になってほしいと一同期待しています。



にぎやかに芋煮会

石原プロモーションの炊き出し「石巻げんき食堂」に協力

石原プロモーションが2011年4月14日、宮城県石巻市役所中央公民館駐車場で、石巻市および同市商工会の協力のもと、炊き出し「石巻げんき食堂」を開始し、当社も協力しました。

当社は、石原裕次郎さん主演映画「黒部の太陽」での技術協力や、裕次郎さん二十三回忌の祭典で仏殿「裕次郎寺」を製作するなど、石原プロモーションとは長きにわたりお付き合いをしており、この炊き出しにあたっては、テント、テーブル、椅子、棚等を提供しました。

渡哲也さん、館ひろしさん、徳重聡さんら俳優の皆さんが、被災した皆さんにカレーやおでん、豚汁、天ぷらそば、ぜんざいなどをふるまいました。会場には長い列ができ、有名俳優から手渡された温かい食事に笑顔がこぼれる場面も多



く見られました。

たくさんの人に元気をふるまいました

避難所として開放した作業所でも過ごした近隣の子もたちからメッセージが届きました

東日本大震災で甚大な被害を受けた仙台市。当社が施工中の仙台市内の土木作業所でも、幸いにも津波の被害は免れたものの、仮設構造物の損傷など大きな被害を受けました。

その中で、同作業所は近隣の被災した方々約30名に、震災当日から10日間にわたって事務所内を、就寝場所、授乳室として開放し、食事、トイレや風呂、ストーブ、発電機による照明や携帯電話の電源などを提供しました。

そうした支援に対して、地震から1年後の2012年3月11日、作業所で過ごした近隣住民から感謝状と、一緒に過ごした小学生から感謝の作文が届きました。

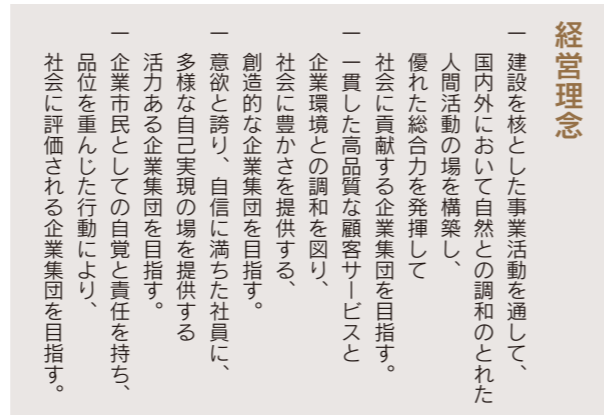
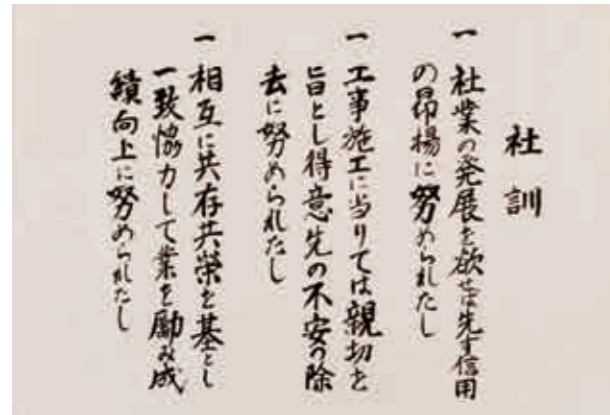
「…とても暗く雪の降った寒い夜。…温かいご飯もお腹いっぱい食べられて、あたりまえのようにできる事のはずなのに、（周りの友達に）それができなかった。でも私にはそれができた。…皆さんはそれぞれが大変だったはずなのに、私たちのことを気にかけてくれてすごうれしかったです。あたりまえのことをできるのがこんなに幸せなことなんだと思えました」

最もつらい時期でしたが、お役に立ててよかったと思います。私たちは、今後もこのようなお付き合いを大切にしていきたいと考えています。

熊谷組のCSR

「社訓」「経営理念」の実践を通じてCSR活動を推進し、信頼される企業集団を目指しています。2012年度も、本業とリンクした“実効性と達成感のある活動”に取り組んでいます。社会の変化を見据え、新たな取り組みを進めています。

社訓・経営理念



社訓——受け継がれる創業の精神

会社設立の1年後、1939年（昭和14年）に創業者である熊谷三太郎が書いた社員の心得三箇条。70年の時を経た今もなお決して色褪せることなく、熊谷組創業の精神として私たちに受け継がれています。

経営理念——進むべき方向（もう一つの軸）

1993年（平成5年）に制定しました。社訓制定当時から50年余り、飛躍的に発展した当社が、改めて企業としての価値尺度を統一し、自らが進むべき方向を定めたものです。

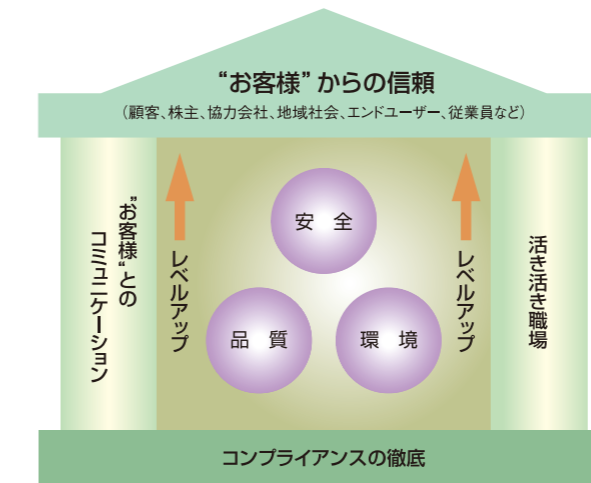
2011年度CSR活動の実績・評価と2012年度計画

基本方針	2011年度計画	2011年度の実績	評価	2012年度計画
1 高品質な製品・サービスの提供	お客様目線で徹底追求！一人ひとりの意識・行動改革 お客様の視点で品質を捉えよう！意識改革の徹底	土木：入札前検討会の充実、施工検討会の充実 建築：重点実施事項（1.「基本品質」の絶対確保、2.瑕疵防止対策の徹底、3.全社強化施策の推進）に基づく品質確保の活動	○	お客様目線で徹底追求！一人ひとりの意識・行動改革 お客様の視点で品質を捉えよう！意識改革の徹底
2 環境に配慮した事業活動	CO2排出量・混合廃棄物の削減 生物多様性保全、グリーン購入の推進 など	CO2排出量・混合廃棄物の削減、生物多様性の保全、グリーン購入の推進	△	CO2排出量・混合廃棄物の削減 生物多様性保全、グリーン購入の推進 など
	環境社会貢献活動の推進 グループ会社の業態、規模に合わせた環境保全活動	本社周辺の学校での環境教育、本社・支店周辺の清掃活動、河川清掃、山林間伐 グループ会社相互パトロール	◎ ○	環境社会貢献活動の推進 グループ会社の業態、規模に合わせた環境保全活動
3 安全・快適な職場づくり	繰り返し型類似災害・事故の防止対策の確認、指導	各種ポスターを作製、展開し安全の“見える化”を実施	△	繰り返し型類似災害・事故の防止対策の確認、指導
4 ステークホルダーとの信頼関係の構築	地域活動への積極的参加	地域のイベントへの参加、本社近隣病院との合同防災訓練	○	地域活動への積極的参加
	取引先とのパートナーとしての関係強化	協力会とのパートナーシップの強化、合同研修会開催、熊谷組と連携した改善提案活動とその表彰	○	取引先とのパートナーとしての関係強化
	株主とのコミュニケーションの推進	「株主通信」を見やすくビジュアル化	◎	株主とのコミュニケーションの推進
5 働きがいがあり、明るく活気に満ちた職場づくり	お客様の声の積極的な収集と活用	経営幹部によるCSヒアリング、3年目アンケート、顧客満足度調査の実施と関係者への展開	○	お客様の声の積極的な収集と活用
	社員間のコミュニケーションの活性化	「ワールドカフェ」開催、古本回収による被災地支援、ボーリング大会の開催 など	○	社員間のコミュニケーションの活性化
	社内技術情報の蓄積・共有化と有効活用 次世代への技術の伝承 仕事と家庭の両立支援	全国土木技術者会議、CAD研修会の実施 施工系社員へ「設備・電気教育」および「施工技術力研修」実施、良好事例のイントラ展開 第2次次世代育成支援計画の実施	○ ○	次世代への技術の伝承 仕事と家庭の両立支援
6 企業倫理と法令遵守の徹底	メールマガジンによる情報の発信	メールマガジンによるお客様や社員の声・感動体験・活動事例等の配信(2回/月)	◎	メールマガジンによる情報の発信
	リスク評価に基づくコンプライアンス研修の実施	管理職を中心としたコンプライアンス研修の実施、法令改正情報の展開	○	リスク評価に基づくコンプライアンス研修の実施
7 CSRに関する啓発	監査室監査、QMS・EMSによる内部監査の実施	監査室監査、内部統制評価、QMS・EMSによる内部監査を実施	◎	監査室監査、QMS・EMSによる内部監査の実施
	各種情報の展開、説明	CSR報告書の説明会、省燃費運転研修、環境講演会、イントラによる情報提供	○	各種情報の展開、説明

熊谷組のCSRの考え方

熊谷組は、本業である建設業における「誠実なものづくり」を通じて社会に貢献していきます。“お客様（顧客、株主、協力会社、地域社会、エンドユーザー、従業員）”の期待に応え、評価・信頼されることにより、企業価値の向上を図っていきます。

■「熊谷組のCSR」概念図



コンプライアンスの徹底をベースに、活き活きとした職場において、“お客様”とのコミュニケーション（対話）を通して社会のニーズを把握し、安全・品質・環境に優れた施工を行い、建造物を提供します。

【評価】◎：達成 ○：ほぼ達成 △：不十分 ×：未達成 -：該当なし

社会の変化に対応した新たな取り組み

当社は、グループ全体での安定収益確保を基本方針としてグループ連携による収益体制の強化を図っています。将来の社会の変化を見据え、新規事業への参画、組織変更を行いました。

【白糸ハイランドウェイ事業への参画】

熊谷組グループにおいて道路工事を中心に行うガイアートT・Kは、2011年6月30日、株式会社白糸ハイランドウェイの全株式を取得し、2011年7月1日より、一般自動車道白糸ハイランドウェイ事業の運営を開始しました。

熊谷組およびガイアートT・Kは、PFI事業の実績や今回の事業参画により蓄積するノウハウを活かし、今後大きな市場として成長が期待される我が国の道路施設の維持管理・修繕事業やPFI/PPP*事業に積極的に取り組んでいきます。



白糸ハイランドウェイ 峰の茶屋料金所

*PFI：Private Finance Initiative 公共事業への民間資金活用
 PPP：Public Private Partnership 官民連携

【福島原子力発電所の対策の強化】

2011年7月16日、東北支店に「福島原子力対策部」を設置し、東日本大震災による福島原子力発電所事故の収束に向けた取り組み体制を強化しました。

【放射性物質の環境汚染に対する取り組みの強化】

2012年4月1日、土木事業本部特別プロジェクト室に「環境再生エンジニアリング部」を設置し、今後本格化する福島県を中心とした除染作業、除染により発生する土壌等の中間貯蔵施設建設など、放射性物質による環境汚染への再生に対して、総合的な取り組み体制を強化しました。

【リニューアル事業推進の取り組みの強化】

戦後つくりあげてきた社会インフラの修繕など、『大更新時代』を迎えるにあたり、リニューアルへの対応力の強化が求められています。熊谷組グループでは、土木部門はグループ会社テクノスのリニューアル事業部、建築部門はグループ会社ケアアンドイーが主力となり、熊谷組と連携を強化してリニューアル事業を推進しています。

信頼の基盤——ガバナンスとコンプライアンス

社会から信頼される熊谷組であるために、企業統治の強化、コンプライアンスの徹底に取り組んでいます。2011年度は、東日本大震災を契機に見直された各災害の被害想定に対応すべくBCP*を強化しました。

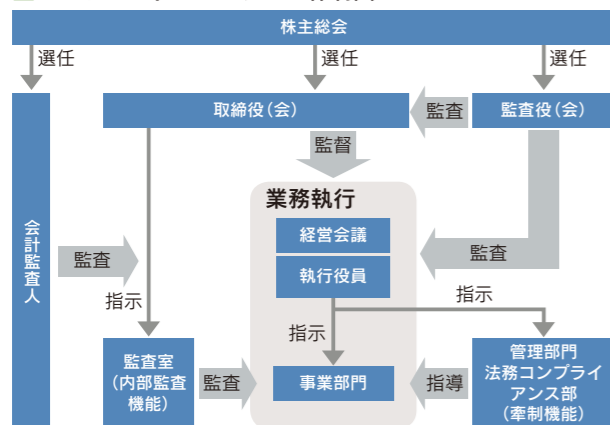
*BCP：Business Continuity Plan 事業継続計画

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制

当社は、コーポレート・ガバナンスの実効性をより高めていくため、取締役会、監査役会、会計監査人からなるコーポレート・ガバナンス体制を採用しています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



取締役については、経営責任の明確化と最適な経営体制の構築のため、任期を1年としています。また、取締役の職務の効率的執行を目的として執行役員制度を採用しています。監査役については、社外監査役に弁護士、公認会計士を選任し、専門知識に基づく監査機能の強化を図っています。会計監査については、監査法人より公正な監査を受けています。

内部統制の実効性向上に向けて

企業が存続し継続的に発展するためには、内部統制が有効に機能することが必須の条件となります。当社は、内部統制の実効性を高めるため、「内部統制システム構築の基本方針」に基づき、社内規程や経営会議体を随時見直すなど、継続的な体制の整備を進めています。

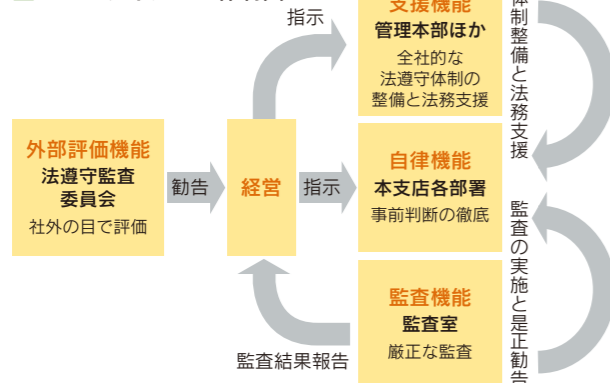
また、金融商品取引法に基づき「財務報告に係る信頼性の確保」に向けた内部統制の整備・運用に熊谷組グループ全体で取り組んでいます。

コンプライアンス

コンプライアンス体制

当社のコンプライアンス体制は、本社・支店各部署による自律機能、管理本部その他の専門部署による支援機能、監査室による監査機能、以上3つの内部機能を中心に成り立っています。さらに、経営から独立した組織として法遵守監査委員会が社外の観点で定期的に評価を行

■コンプライアンス体制図



い、不具合があれば経営に対して勧告するという体制をとり、コンプライアンスの徹底を図っています。

法令違反 (行政処分および行政措置等を含む)

2011年度においては、①施工中の信号ケーブル切断事故を理由とする東京地下鉄(株)等からの指名停止、および②工事関係者事故を理由とする中部電力(株)からの一定期間の取引停止の各処分を受けました。

法令遵守への取り組み

【全社員による誓約書の提出】

一切の不正・不法行為との完全決別を図り、社員一人ひとりが法令遵守を徹底するという意識喚起のため、役員を含む当社社員およびグループ会社の社員は毎年、「法令遵守に関する誓約書」を提出しています。

【コンプライアンス研修の実施】

法令遵守に関する基礎知識向上のために、2012年2月から3月にかけて、本社および全支店において、主に営

業系社員を対象に、改正独占禁止法、暴力団排除条例および建設業法などに関する社内研修会を実施しました。

【法遵守強化月間】

毎年10月を「法遵守強化月間」と定め、社員一人ひとりのコンプライアンス意識を高揚し、また、日常業務等に潜むコンプライアンスリスクの再点検に努める期間としています。

2011年度においては、社員および協力会社に対する社内通報制度の再度の周知徹底、作業所等での法遵守強化月間ポスターの掲示および綱紀担当役員による全社員あてのメッセージ発信などの施策を実施しました。



法遵守強化月間ポスター

反社会的勢力の排除の体制

当社では「熊谷組行動指針」において、反社会的勢力に対し毅然とした態度で立ち向かうことを宣言し、また、「コンプライアンス・プログラム」の中に「不法勢力対処プログラム」の章を設け、不当要求行為を受けた場合の具体的な対処法を解説して社員に周知しています。

また、当社は、各種取引からの暴力団等反社会的勢力排除を目的として、協力業者との取引の際に使用している「専門工事請負約款」および「資機材等売買取引契約

環境保全関係法令の遵守

当社は厳しい自主基準を定めて、環境保全関係法令の遵守に努めています。

【2011年度の主な事故、行政報告と対応】

- トンネル工事において塩化第二鉄貯蔵タンクの吐出口が腐食し、坑内湧水とともに1m³程度河川へ流出
 - トンネル背面の空洞充填材の漏れが発生し、沢に流出
 - シールド覆工掘進時に加泥材を注入、その圧力で土砂を押し出そうとしたときに加泥材が地上の道路に流出以上3件については、直ちに対応しました。
- 再発防止策として、イントラネットに事故等に関する情報を掲載するとともに、関連工事の施工前検討会およ

熊谷組BCPをレベルアップし認定更新

東日本大震災を契機に、政府や地方自治体などでは首都直下地震等の被害想定が見直され、公表される被害規模は従来よりも拡大しています。

当社では、これらの想定や東日本大震災での対応を踏まえ、「事業継続計画(熊谷組BCP)」を改訂し、関東地方整備局が実施する「災害時の基礎的事業継続力認定

約款」等に暴力団排除条項を導入しています。2011年においては「民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款」が改正され、同年5月改正版より暴力団排除条項が追加されたこととともない、発注者との間で締結する工事請負契約に関しても、この約款を使用することにより、暴力団等反社会的勢力の排除に努めています。

なお、実際に暴力団等から不当要求行為があった場合には、総務部門、法務部門が、警察、弁護士等の外部専門機関と連携をとり、対応することとしています。

個人情報の保護

企業の重要な責務として、個人情報保護のための社内体制整備を進めています。

各種の基本ルール(基本理念、個人情報保護方針、個人情報保護規程など)を制定するとともに、同法の定める法定公表事項を当社のホームページ上に掲載し、株主、社員その他当社に関係するすべての方々の個人情報の適切な取り扱いおよび保護に対する取り組みを行っています。また、個人情報保護法対応マニュアルを策定し、これを全社員に展開して個人情報の保護に努めています。

訴訟の状況

全国8地裁で訴訟中の「トンネルじん肺損害賠償請求事件」を除き、2012年3月末時点で当社が抱える民事訴訟事件数は合計11件となっています。

びパトロールにてリスク管理を強化しています。
※2011年度において、法違反による罰金、料金はなく、訴訟も受けていません。

■熊谷組の自主基準と取り組み

自主基準	取り組み内容
建設副産物取扱要領	・指定業者制度の取り扱いを明確化し、全社統一として対応(最新改訂2011年度)
汚染土壌及び埋設廃棄物等対応要領	・周辺住民の生活環境への影響を防止するため社内の連絡体制、各部署の役割を明確化し、企業として総合的に対応(最新改訂2010年度)
建設副産物管理システム	・支店で印字した紙マニフェストを作業所に配布 ・独自にデータ管理システムを開発し、運用(最新改訂2009年度)

制度」の更新認定を受けました。

2011年度熊谷組BCP訓練。当社では、いつ災害が起きても、インフラ復旧工事やお客様対応などの主要業務が継続できるように、「熊谷組BCP」に基づくさまざまな訓練を毎年実施しています



お客様の信頼

「お客様に感動を」これが熊谷組のスローガンです。お客様の声に対して真摯に迅速に応え、誠実な営業、誠実な施工、誠実なフォローを徹底して、お客様に信頼される企業を目指しています。

“協働する喜び、一体感のある動き” お客様の声に応える動きを実践しています

「お客様に感動を」

熊谷組では2002年から「お客様に感動を」のポスターを作成し、すべての作業所と事務所に掲示しています。

ポスターには、「お客様に感動を」の言葉とともに、総力を挙げた誠実な営業、誠実な施工を実践する、という大田社長のメッセージを掲載しています。先達の努力の積み重ねで得られた信用に感謝し、顧客の信頼に応えられる企業を、熊谷組は目指しています。このメッセージは、CS (Customer Satisfaction: 顧客満足) 活動の具体的な取り組みを示しています。



「お客様に感動を」ポスター

熊谷組のCS活動

お客様から信頼される企業を目指すCS活動を推進していくため、1998年、本社にCS推進室を設置しました。翌年4月には、全支店に24時間対応の建物相談窓口を持つ「お客さま相談室」を配置し、お客様からの相談や苦情をいつでも受けられるように、そして迅速にお客様に対応していくことを軸としてCS活動を進めています。

【24時間対応の建物相談窓口】

通常の業務時間内だけでなく夜間・休日にも対応できるように、24時間受付体制を確立しています。

またお客様のところへ直ちにうかがって不具合是正を行う緊急出動体制も兼ね備えています。

【CSヒアリング】

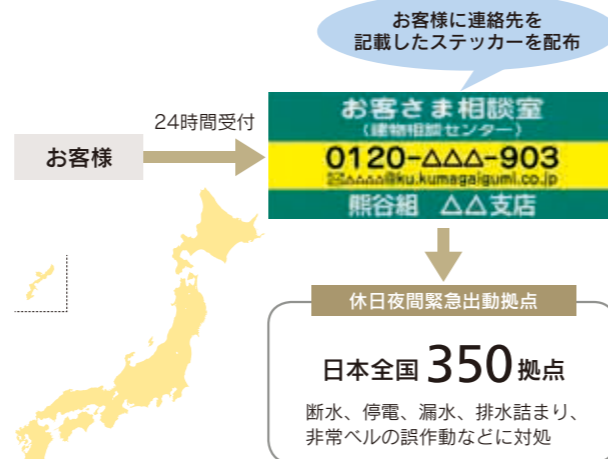
本社や支店の経営幹部が、お客様を訪問して“CSヒアリング”を実施しています。

この活動は、経営幹部がお客様の意見を直接入手する取り組みとして、熊谷組のCS活動の中でも重要な活動として位置付けています。

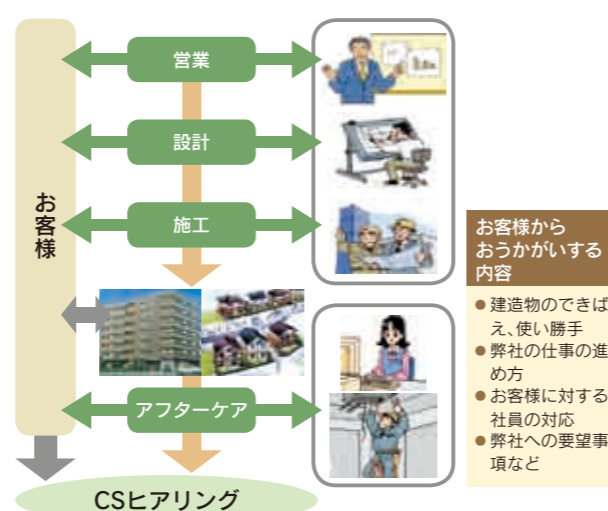
【お客様の声アンケート】

お客様に建物を引き渡して3年後に、「お客様の声アンケート」を実施しています。評価項目は、①建物のできばえ ②引渡しから定期点検までの取り組み(アフターケア全般) ③当社連絡窓口の対応 ④当社社員の仕事の進め方の4つです。アンケート結果については、お客様からの回答の内容を確認し、速やかに社内への展開を図っています。また、不具合の内容が記載されているときは技術的な原因を調査して再発防止に向けた取り組みを進めるなど、ご意見を改善につなげています。

■「お客さま相談室」の活動



■CSヒアリング

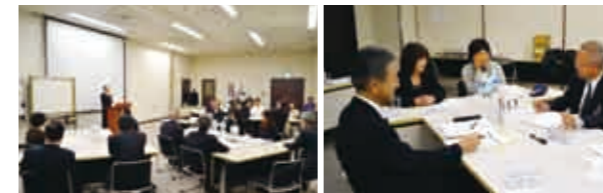


【社員への啓発活動】

お客様から寄せられた声(苦情、お礼)、社員の声(意見、感想、感動体験)などCS活動を啓発する内容のメールマガジン「お客様に感動をNews!」を月2回発行し、全社員に配信しています。各支店ではポスターの掲示やCSカードの配付など自主的な啓発活動も進めています。

【お客さま相談室集合研修会】

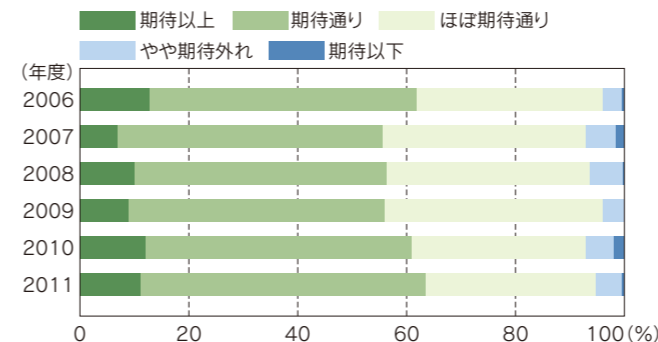
2012年2月1日、全国からお客さま相談室のスタッフが集まり、「だからこそ…CS!」をテーマに、外部講師によるセミナーと、グループ討議(ワールドカフェ形式)の2部構成で集合研修を行いました。



■お客様の声アンケートへの対応事例

ご不満の声	2年目点検の改善事項で残っているものを早く処理してください。	立体駐車場スロープ部のエキスパンションジョイント取り合いについて若干の不具合があります。
初期対応	アンケート受領後、お客様に連絡を入れ、現地の状況を確認。	アンケート受領後、回答者にヒアリングを行い、現在の状況を確認。
結果	対応中だったが、お客様の立場に立った経過報告がされていなかった。改めてお客様に説明を行い、残っていた改善事項を実施。	すでに補修が実施され、その後の不具合は発生していなかった。他支店で施工する同発注者の店舗現場に今回の不具合を展開。

■“アフターケア全般”についてのお客様の評価



【CS活動の成果と今後の課題】

「お客様の声アンケート」における“アフターケア全般”についての評価の推移を見ると、2007年に評価が下がり、2009年まで大きな変化は見られませんでした。2010年、2011年と「期待以上」「期待通り」の割合が増えています。今後も、さらにお客様の声に応え、「誠実な営業、誠実な施工、誠実なフォロー」の実践を徹底して、お客様に感動をしていただけるCS活動を目指していきます。

お客様からの声

1 近隣の方からフリーダイヤルに届いた声

工事中に現場敷地に隣接した方から騒音、埃等の苦情が寄せられていましたが、職員の誠実な対応に対してお礼の電話がお客さま相談室のフリーダイヤルに届きました。その後、現場が竣工し、この方のご自宅に清掃の業者がおうかがいして作業をしたところ、後日、この方が再度フリーダイヤルに電話をかけてこられました。

本日、窓のほこり拭きの業者さんが来られました。そのスタッフの対応がとてもよかったので、ぜひともお礼の言葉を伝えてほしいのです。窓拭きに来られた男性3名の方は、こちらの立場に立ってやって来て、心から感動しています。細かいところまでよく気がついて、笑顔がすがすがしかったです。“終わりよければ全てよし”ではないですが、気持ちのいい対応で、本当にうれしいです。よき人材は宝ですね。こういう方がいる会社は素晴らしいですね。こういう会社を使っている熊谷組も素晴らしいと思います。恩返しは何もできないのですが、友人などに熊谷組のことを宣伝しておきます。Aさん、窓拭きの会社の方、社内の方々に必ずお伝えください。

2 マンション管理組合理事の方から届いたメール

当社施工のマンション4棟の大規模修繕工事中に東日本大震災が発生し、作業所・協力会社の社員は、すぐに現場を巡回。その後、避難されてきた年配の方や体の不自由な方のために現場事務所の椅子を配置する一方、エレベーターに人が取り残されていないか確認をしました。ところが、いつもお世話になっている一人住いの年配の方がいらっしやらなかったため、協力会社の社員が13階の部屋まで歩いて確認に行ったところ、エレベーターが動かないため、看護の方とお二人で部屋におられ無事を確認。お二人はとても感謝されたそうです。

後日、管理組合の理事の方から感謝のメールが社員に届きました。

現在うちのマンションで、熊谷組の株が、赤丸急上昇中です。震災発生時に、老人会の長老たちの避難のお世話を、御社A営業所のB所長以下、作業所の下請け業者さまの皆さま方までが非常に献身的にご支援くださったとの、感謝の言葉が多数管理組合理事会にきています。よいお仕事をさせていただき誠に感謝しています。

確かな技術への信頼

熊谷組の確かな技術は、お客様から信頼と高い評価をいただいています。時代の変化にすばやく対応し、社会に必要な技術を提供しています。

無人化施工技術

無人化施工とは、災害などにより人が立ち入ることができない危険な場所において遠隔操作により建設機械を使用する施工をいいます。当社は、これまで雲仙普賢岳をはじめ多くの災害発生現場での被害が最小限になるように、地元の応急対策、復旧工事に貢献しています。

2011年の台風12号による紀伊半島豪雨の土砂崩れ対応工事では、近畿地方で初めて導入したマシンコントロールシステムが活躍しました。ハイビジョン画像と計測情報を光ファイバーと無線LANなどを組み合わせた最新の双方向情報通信技術により、標高差200m、距離

1km以上離れた操作室からブルドーザや油圧ショベルを遠隔操作。それらに取り付けたGPSや各種センサーで排土板やバケットの位置を3次元計測情報として操作室の画面に表示し、CAD画面との自動制御を行う画期的なシステムです。



マシンコントロールシステムを使って操作室から無人の重機を操作し、作業している状況

地下駐車場の耐震補強

熊谷組グループでは、耐震ラップ工法などの耐震補強技術を保有しており、鉄道橋や道路橋をはじめ多くの土木構造物の耐震補強を施工しています。

東京都心部の幹線道路である昭和通り直下にある地下駐車場（東銀座地下駐車場、室町地下駐車場）は、建設から50余年経過しており、2011年度に供用しながら耐震補強を実施しました。工法としては、側壁については一面耐震補強工法を、柱については鋼板巻立て補強工法を採用しました。

一面耐震補強工法は、壁の片面（一面）から補強鉄筋を多数挿入し補強する工法です。鉄筋挿入用の孔をコアボーリング機により削孔しますが、その際に既存の鉄筋を切断しないように、あらかじめ鉄筋の位置を確認しながら施工します。

また、当工事では、駐車場として営業しながら施工するため、壁の削孔、鉄筋や鋼板の組み立て、モルタルの

充填などの工程で、粉塵や騒音の発生を最小限に抑えるとともに、駐車車両の通行を妨げないなど安全性の確保を徹底しました。



一面耐震補強（側壁）



鋼板巻立て補強完了（柱）

汚染土壌浄化技術

熊谷組および立命館大学では、油汚染土壌の生物処理技術で使用する油分解菌に対して、経済産業省および環境省策定の「微生物によるバイオレメディエーション利用指針」に基づき適合確認を申請し、2011年に大臣確認を取得しました（申請者：立命館大学、熊谷組、日工（株））。これにより沖縄県が公募した「微生物等を活用した汚染土壌の浄化処理技術開発事業」に県内企業の南洋土建（株）やグループ会社テクノス（株）とともに応募し採用され、2012年4月から沖縄県浦添市において浄化実験を開始しました。本事業は、汚染土壌の浄化技術を

沖縄県内に普及させたいとの意向で、沖縄県が推進しているものです。



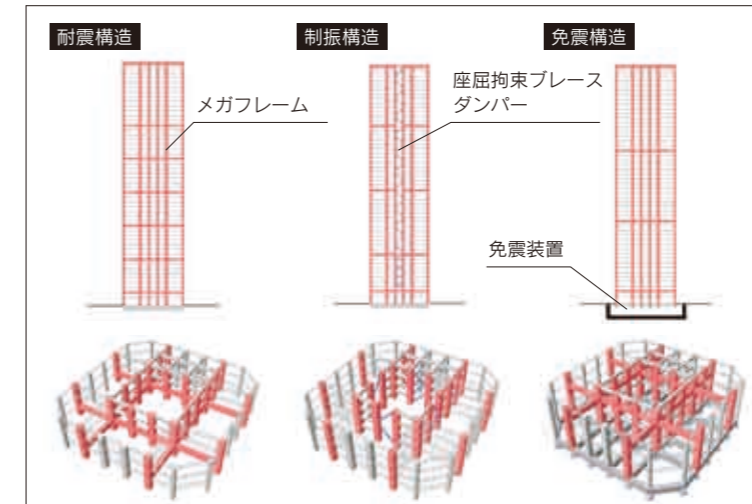
バイオ浄化実験状況（沖縄県浦添市）

PEAS TOWER（ピースタワー） 次世代型超高層・高耐久住宅システム ——免震、制振、耐震に柔軟に対応

近年の集合住宅は、次のような強いニーズがあります。
①快適な居住性 ②自由なプランニング
③優れた設備更新性 ④短工期施工
「メガ・フレックス構法（高性能・高自由度構法）」は、このような時代のニーズに応えるべく開発されました。

この構法は、コア部のメガ柱と、10～15層ごとに設けるメガ梁（大断面のメインビーム）に構造を集約する構法で、一般階梁の扁平化、スラブへの内蔵化を可能にしています。コンクリート強度は、50階建の場合、最大100N/mm²程度で対応でき、特殊な材料や耐火被覆の必要がなく、広い地域で適用できます。構造形式も、免震構造、制振構造、耐震構造のいずれにも対応可能です。

制振構造の場合、装置がボイド側の共有部分に設置さ



れること、スケルトン（構造躯体）とインフィル（設備部材等）を完全分離（SI完全分離）しボイド内に給排水・ガス・電気などの主幹線を集約することにより、専有部分に干渉することなく制振装置や各種設備部材等のメンテナンス更新を行うことができます。

これらにより、優れた更新性とともに入居者の長寿命化を実現しました。

一方、この構法では、コア部に分厚い連層耐震壁を用いないため、建物が軽量化され、基礎部への負担が軽減されるとともに、工期短縮、躯体数量の低減等により、建設・解体時のCO₂排出量を大幅に低減できます。



Super-High-Brid 60 新熊谷式柱RC梁S構法 ——高層建物まで適用範囲拡大

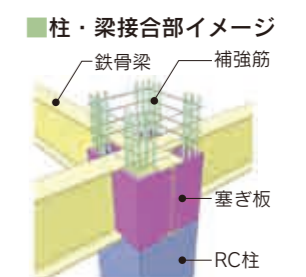
大規模物流施設等は、通常の建物に比べて重い積載荷重、長いスパン、高い階高となります。そこで、軸力が大きくかつ長い柱部材には圧縮に強いRC造、スパンが長い梁には軽量で粘り強いS造を採用する混合構法とし、構造材料を適材適所に使用することで、経済的な構造体を実現できます。

新熊谷式柱RC梁S構法（2011年9月性能評価取得）は、高さ60mまでの大規模な物流施設やホテル、図書館などに適用可能になりました。さらに、高さ60mを超える高層対応の接合部の実験を終了し、この結果を追加・拡充して「Super-High-Brid 60」として性能評価を取得しました（2012年5月）。これにより、高層建物への対応も可能になります。

この構造は、免震、制振、耐震いずれの構造にも柔軟



に対応できます。さらに、太陽光発電システムや屋上緑化、非常用ろ過・消毒装置、非常用備蓄倉庫、自家発電設備、地盤の液状化対策などの技術を併用することで、環境にやさしく災害に強い建物を実現できます。



地域社会の信頼

社会貢献活動、環境保全活動などを通じて地域の皆さまとの交流を深めています。これからも地域の皆さまに愛される熊谷組を心がけていきます。

児童と保護者対象のシールドマシン見学会

2011年8月25日、広島市でシールドトンネル工事を行っている松川地区下水道築造工事（松川シールド作業所）で、広島市主催の「水の施設」に関する見学会が行われ、近隣の小学生とその保護者ら約20名が参加しました。

参加者たちはシールドトンネルの掘削方法やセグメント組み立て方法などの説明を聞き、実際に目で見て確かめました。参加者全員がシールドトンネルの内部に入るのが初めてで、目の前にした掘削機械の大きさや迫力などにとても驚いていました。同伴した保護者たちも児童



たちに負けなくらい興味津々の様子でした。

初めて見るトンネルの中

ラブアース・クリーンアップin北海道

2011年6月5日、「ラブアース・クリーンアップin北海道2011」に参加しました。これは、環境月間行事として「NPO法人北海道市民環境ネットワーク」が主催し、石狩の浜のごみ拾いを行うものです。

当日は、晴天に恵まれ社員・家族10名が参加して、砂浜のごみ拾いに汗を流しました。総勢248名の参加者により、大量にあったごみもなくなり、きれいな浜にすることができました。



集めたごみの山

「トトロの森」で竹林間伐ボランティア

2011年11月12日、埼玉県所沢市内の「トトロの森」の竹林間伐ボランティアを行いました。「トトロの森」は、「公益財団法人トトロのふるさと基金」が管理活動を行っており、『となりのトトロ』の舞台のモデルと言われている狭山丘陵の中にあります。

当日は、熊谷組本社、首都圏支店、グループ会社であるガイアートT・K、テクニカルサポートから合計19名が参加し、竹の伐倒、枝払い、適度な長さへの切り分けと集積、払った枝を束ねた垣根づくりなどの作業を行いました。



伐採作業状況

もみじ植樹ボランティア活動

2011年11月20日、中四国支店の社員とその家族が広島市森林公園もみじ谷の「もみじ植樹ボランティア活動」に参加しました。

広島市森林公園もみじ谷は2004年から市民参加によって植樹が行われ、今回の植樹活動を主催した広島県土木施工管理技士会広島支部は、4年前から、もみじ谷づくりに参加しています。

中四国支店からは、支店長をはじめ社員とその家族の合計9名が参加し、肌寒い天候の中、苗木、肥料、鹿よ



けネット、山鍬を受け取り、もみじ谷で植樹を行いました。

苗木を植える穴を掘っています

現場仮囲いに巨大なアート

2011年6月16日、三重県玉城町の宮川シールド作業所の近隣の絵画教室の子どもたちが、現場の仮囲いの壁画の作成を行いました。

この作業所では日頃から、地元の方々に工事に対するご意見、ご要望を定期的にかがいが、現場見学会や、工事現場での総合学習の授業、地元の方も参加できるAED講習会の開催などを行っています。

壁画作成は、殺風景だった空間を華やかにして、近隣住民の方々とのコミュニケーションをさらに深めたいという思いで企画されました。絵には子どもたちの手形や、特大の筆で描かれたものなど、思い思いの発想が散りばめられ、立派な巨大アートになりました。

完成した壁画は、今では、地元の方々に工事の説明をする際など、「あの壁画がある場所だ」と言ってもらえ、住民の方々ほぼ全員に知られています。また、遠く関東地方からおじいさん、おばあさんがお孫さんの絵を見に



これ、工事事務所にもお礼の電話や訪問をいただくこともありました。

完成した壁画

落書き消し隊活動に参加

2011年11月13日、名古屋市の「栄東まちづくりの会」が、主催する、地域落書き消し活動に名古屋支店の社員が参加しました。

「栄東まちづくりの会」は、栄東地域の居住者、在勤者を会員とする、「楽しいまち、住みよいまち、住みたくなるまち」づくりの活動を行っている団体です。

落書き消し活動は、街中にある落書きに新たにペンキを塗り直しきれいにするというもので、今回は、3店舗のシャッターと壁の落書きを消しました。初めてペンキを塗る方も大勢いましたが、職人顔負けの仕上げを目指して頑張りました。一緒に参加した地域の方とも和気あいあいとした雰囲気の中で作業を行い、作業終了後は店舗の責任者および名古屋市職員の方よりお礼の言葉をいただきました。



ペンキを塗って落書きを消していきます

東京都盲人福祉大会のボランティア活動

2011年10月21日、東京都盲人福祉協会世田谷支部が開催する「第43回東京都盲人福祉大会」のボランティアとして、熊谷組本社、首都圏支店、国際支店およびグループ会社テクニカルサポートの社員の合計9名が参加。大会会場となった昭和女子大学人見記念講堂と基点となる三軒茶屋駅間や最寄りのバス停などの会場周辺ポイントに立って、大会に参加される目の不自由な方たちを案内しました。

駅から昭和女子大学までは学生、歩行者、自転車の往来が激しい場所です。ご来場になる白杖を持った方々に危険が及ばないように、直接、手をとって声をかけ、足の運びに気を配り、安心して会場に到着していただくことを心がけ、案内しました。



バスの降車時は特に配慮が必要です

会場周辺のポイントで案内します

短冊に想いを込めて、カンボジアの子どもたちに

2011年7月2日、国際機関日本アセアンセンター・アセアンホールで開催された「カンボジア・フェア」で、当社社員が書いた「短冊」が会場に飾られました。

2年前、「Tシャツを贈ろう！作戦」で集まった子ども服をカンボジアのアンコール小児病院に、当社有志が届けました。その時にご協力いただいたNPO法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN事務所から機会をいただき、社員が「短冊」に願いごとを書きました。

「カンボジア・フェア」で展示された「短冊」は、その後、カンボジアの子どもたちに届けられました。



大盛況のカンボジア・フェア会場

飾られた短冊

安全衛生の取り組み

「安全No.1」を目指す熊谷組ですが、2011年度は目標には程遠い結果となりました。2012年度はその結果の検証に基づき、「3現主義」の徹底、安全の“見える化”などの施策を推進。再び「安全施工の熊谷組」に復帰するべく、全力で安全衛生管理活動に取り組んでいます。

「安全施工の再構築」を目指す

2011年度熊谷組の安全成績は重篤災害こそ発生しなかったものの、休業災害が18件発生しました。同一発注者での度重なる災害の発生、同種類の災害の繰り返しなど、再発防止が徹底されず、目標である「休業災害ゼロ」には程遠い結果となりました。熊谷組は「安全」「品質」「環境」でNo.1を目指しています。企業規模ではなく、「仕事の質で勝負する」熊谷組を目指しています。今後、作業員の高齢化、ベテラン技術者・技能者の減少など安全環境は逆風となりますが、それらを克服し、再び「安全施工の熊谷組」に復帰しなければなりません。今一度、原点に立ち返り、安全衛生管理活動と労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の運用を実践していきます。

「3現主義」の徹底を

「安全施工の熊谷組」復帰への鍵は妥協・油断なき「徹底」です。「現場」に足を運び“場”を確認する、「現物」を手に取り“物”を確認する、「現実」をこの目で見て“事実”を知る。この「3現主義」に立ち返ることが大切です。

年度計画と安全の“見える化”

2011年度のPDCA(計画-実施-点検-改善)サイクルにおける継続的改善ならびにリスクアセスメントの結果などから、「第76期(2012年度)安全衛生管理計画書」(本社)を策定しました。また、安全衛生の“見える化”に取り組み、ポスターを作成して展開。“見える化”の推進で、安全衛生管理活動のいっそうの充実を図っています。

安全衛生理念

会社は、人命の尊重を最優先し、専門工事業者等と一体となり、働く者一人ひとりの安全の確保と健康の増進を図るとともに快適な職場環境を確立し、全社員が一致協力して、労働災害の防止を図り、高い安全衛生管理水準の維持に努め、生産性の向上に資する

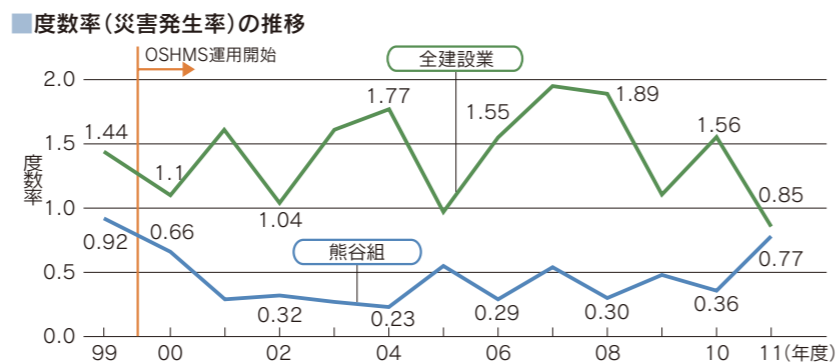


全事業所に掲示している「安全・品質・環境」ポスター(2012年版)



安全成績

1999年10月のOSHMS導入以来、安全成績は常に業界トップクラスを維持してきましたが、2011年度は休業災害が相次いで発生し、マネジメントシステム導入以降最悪の安全成績でした。2012年度は「3現主義」を徹底し、安全衛生協会とともに“安全衛生の車の両輪”として、建設現場から労働災害を根絶します。



・熊谷組は年度集計(4月～3月)、全建設業は年集計(1月～12月) ・全建設業数値は、厚生労働省統計による
 ・度数率＝労働災害による死傷者数÷延労働時間×1,000,000

安全意識高揚の継続と水平展開

OSHMSを継続運用することは、労働災害防止に大きく寄与する重要事項です。安全に対する意識の高揚、安全管理活動の定着を継続させるため、さまざまな取り組みを行い、安全管理向上につなげています。

安全衛生大会

本社を皮切りに全国8支店が4月中に安全衛生大会を開催しました。社員・専門工事業者・安全衛生協会に年度計画の実施事項をいち早く周知し、災害防止に取り組んでいます。



安全衛生パトロール(現場点検)

本社・支店・協会・専門工事業者とさまざまな視点から、安全衛生パトロールが実施されています。
 【本社】本社パトロールでの朝礼、訓示／支店間相互安全衛生パトロール
 【支店】安全衛生パトロール
 【協会・専門工事業者】協会パトロール／職長会パトロール／事業主パトロール



安全衛生教育

労働災害防止の重要な対策の一つに、安全衛生教育が挙げられます。本社・支店、安全衛生協会では、年度の教育計画に沿って社員、事業主および作業員に対し安全衛生の知識向上教育とシステム教育を実施しています。2011年度は、国際支店からの要請を受け、日本での労働局にあたる、台湾の臺北市政府勞工局労働検査處視察団に対し、熊谷組における安全についての講義や、直接現場に出向き、安全管理について意見交換を実施しました。



安全衛生協会 会報誌「礎」

安全衛生協会では、会報誌「礎」を年2回発行し、協会会員の皆さまに熊谷組の現場とともに職長会活動の紹介をしています。その他、安全衛生協会活動、協会会員における身近な出来事の報告、また支部独自の再発防止に向けた取り組み・活動を掲載し、共有できる取り組み・活動は水平展開していくことで、さらに幅のある充実した協会活動となることを目指しています。



労働安全コンサルタント資格取得の推奨

熊谷組では積極的に労働安全コンサルタント資格の受験推奨を行い、筆記試験ならびに口述試験用資料の展開、口述試験講習会を開催しています。2011年度も7名が合格し、資格保有者は全社で118名にのぼっています。

安全表彰

本社支店の安全衛生大会では、社長表彰、支店長表彰、安全衛生協会の会長表彰、支部長表彰を実施しています。

表彰式にて

労働安全コンサルタントに合格！資格を安全衛生水準の向上に役立てます

土木事業本部技術センター課長 森山 泰文

安全に対する関心が高まる中、社会から要求される水準も多種多様で厳しいものとなっています。私は自己研鑽と当社の安全衛生水準向上に役立てるためコンサルタント資格を取得しようと考え受験しました。会社から受験対策の提供などの支援もあり、安心して臨むことができました。今回の受験は、安全に対するスキルアップに非常に有効であったと感じています。



最良の品質を目指して

熊谷組は、全社共通のQMS（品質マネジメントシステム）を確立・運用。基本動作を徹底し、お客様の要求品質を的確に把握して、評価され、信頼される「ものづくり」を目指しています。

熊谷組品質方針

法令・規制要求事項を遵守することはもとより、全社員が一丸となって徹底したお客様志向によりお客様の要求品質を的確に把握し、満足していただける建造物とサービスを提供することでお客様の信頼を高める。
また、効果的な品質マネジメントシステムの運用を図るため、継続的な改善を推進する。

2012年度 社長年度品質方針 堂々とした誠実なものづくり

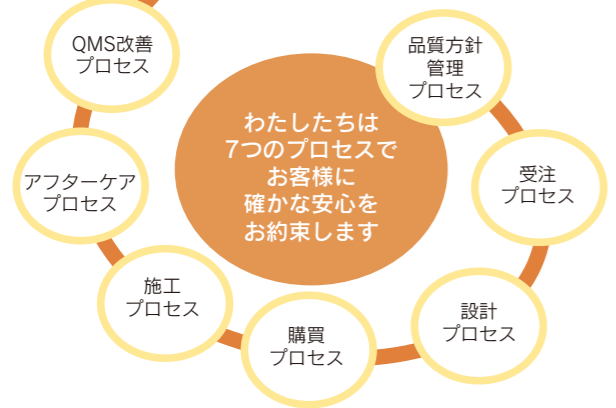
「堂々とした誠実なものづくり」を実践し、お客様をはじめとする関係者（ステークホルダー）から評価され、信頼される「ものづくり」を目指します。
総力戦の意識は、社員および協力会社に浸透してきており、お客様から高い評価を受ける機会が増えております。一方、社会の要求する品質は、我々の改革を超えるスピードで高くなっています。
引き続き、全役員・社員が品質に関する社会の要求を敏感に感じとり、情報の共有を促進し、基本動作を徹底し、取り組みの質を向上していくことが必要です。
社員力と協力会社の英知を結集した総力戦で、先手管理を徹底し、やるべき事をスピード感をもってやり抜いてまいります。 2012年4月1日

最良の品質を目指して、改善を進めています

7つのプロセスを軸として

熊谷組は、7つのプロセスを軸とした会社統合の品質マネジメントシステムを確立し、運用しています。

熊谷組のQMS 当社の品質マネジメントシステム（QMS）は、品質の国際規格であるISO9001:2008（JIS Q 9001:2008）に基づき、建築物の設計、工事監理および施工、土木構造物の設計および施工に適用、全社的に運用しています



監査を通じて

熊谷組は、第一者監査（支店内部監査および全社監査）、第二者監査（お客様による監査）、第三者監査（審査機関による審査）を通じてシステムの継続的改善に努めています。

第一者監査（支店内部監査）：支店において行う監査で、支店監査事務局が計画します。支店の品質目標・重点施策の実施状況、有効性のばらつきを確認するとともに良好事例、改善点を見つけ、支店の関係部署にフィードバックし、運用水準の底上げに努めています。

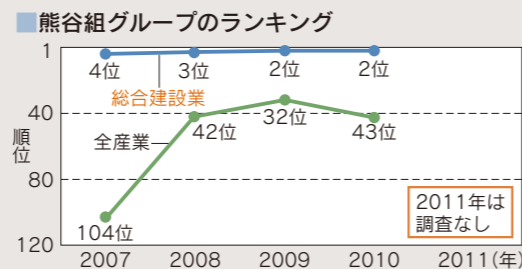
第一者監査（全社監査）：本部および各支店に対して行う監査で、本社監査事務局が計画します。主に本部および支店の品質目標・重点施策の実施状況、有効性のばらつきを確認するとともに良好事例、改善点を見つけ、全社にフィードバックし、各支店、部署の運用水準の底上げを図っています。

第二者監査（お客様による監査）：2011年度は、ノキアシーメンスネットワーク株式会社様による監査を受けました。不適合はありませんでしたが、軽微な指摘が3件ありました。監査員から、6年間を通じて品質保証活動が充実しているとの評価をいただきました。

第三者監査（外部審査）：認証機関の一般財団法人建材試験センター（JTCCM）による審査を、本部・支店が毎年受審しています。2011年度は、改善推奨事項が2件ありました。

「企業の品質経営度調査」によるランキング

品質経営度とは、製品の競争力や企業価値に影響を与える「品質」を高めるための仕組みづくりや実践状況を定量的に評価したものです。
品質経営度調査は、「経営者コミットメント」「全員参加と総合化」「品質教育・人材育成」など6項目について、各社のアンケートに基づき、一般財団法人日本科学技術連盟が評価を行っています。当社は調査結果を当社の「強み・弱み」の確認、次の改善のために活用しています。



お客様の要求品質を確実に実現するために

最良の品質は、品質保証体制、品質にこだわる人材、実効性あるプロセスが一体となって実現するものと考えています。当社は、確立された品質保証体制のもと、人材を継続的に育成するとともに、7つのプロセスにおいて、計画（Plan）、実行（Do）、確認・点検（Check）、見直し・改善（Action）のサイクルを回し、その質を高めています。



*K-TOPS：Kumagai Total Open Process System 建物の建設中に品質・安全・環境の取り組みをお客様に積極的に公開し、お客様に納得いただく熊谷組独自の活動。

「最良の品質」を目指し、品質にこだわる技術者を継続的に育成しています

新入社員・若手社員の研修 土木

新入社員、2～9年次を対象にした集合研修を毎年実施しています。品質保証活動に関するカリキュラムを盛り込み、「社員力」の向上に努めています。



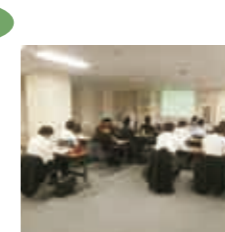
中堅社員の研修 土木

毎年実施している15年次を対象にした中堅社員の集合研修は、品質レベル向上を目指し、協力会社現場責任者と合同で開催しています。



若手社員の研修 建築

若手社員の品質管理能力向上を目的として、躯体工事の品質管理の要点・注意点を指導する「施工技術研修会」および、設備・電気工事の要点・知識を学ぶ「設備・電気研修会」を開催しています。



専門知識分野習得講座 建築

年に1回、技術研究所で「専門知識分野習得講座」を開催しています。さまざまなテーマに対する技術、知識を習得し、問題解決能力、合理化・VE提案能力を高めます。また当社保有技術の営業的アピール力も同時に習得しています。



ものづくりの現場から——協力会社との協働 互いを「パートナー」と呼び、誇りとやりがいをもって協働する

熊谷組のものづくりにおける礎は協力会社とのパートナーシップです。鉄筋を組む、コンクリートを打設するといった実際の現場作業は、高い専門技術を有する協力会社が担います。主要な協力会社は熊土会(土木)・熊建会(建築)の組織を作り、熊谷組と一体となってよりよいものづくりに取り組んでいます。

協力会社による現場パトロールで 情報を共有し、らせん状にレベルアップ

2012年5月、大阪市中央区の「プレミスト堺筋本町作業所」に10社ほどの協力会社が集まりました。熊建会関西支部・躯体部会の現場パトロールのメンバーです。熊建会とは躯体、仕上げ、設備関係の協力会社(一次下請業者)から構成される組織。現場パトロールは熊建会の部会活動の一つで、安全・品質・環境、そして関西支

部ではそれらに加えてコストの観点から、自主的にさまざまな現場を見て回ります。常深公司作業所長(熊谷組関西支店)は、「いろいろな角度から本音で意見を言ってもらるのが楽しみ」と笑顔で一行を迎えました。

まずは事務所で他現場の事例を見ながら、コンクリートのひび割れなどの原因分析や防止策について情報を共有。その後現場に移動し、型枠や鉄筋、土工事など専門分野ごとに気になるポイントを現場の職長とともに見ていきます。「この梁部分は狭いですが、コンクリートパイプレーターが入りますか」「小さな開口部にもきちんと養生がしてありますね」。多様な指摘をしながら、該当箇所を各自デジタルカメラで撮影していきま

す。

熊建会関西支部長の櫻木組・櫻木正人社長は、この現場で型枠工事を担当。型枠工事業者として「採光のため部分的にプラスチックの型枠を使っています」などと説明する一方、パトロール側の視点で型枠の狂いやコンクリートのたわみをミリ単位でチェックします。

後半は事務所に戻って検討会や意見交換です。各々が撮影した画像は、熊建会事務局を担当する河本潔技術グループ副部長



気になる箇所を見ながらその場で意見交換。中央は櫻木組の櫻木社長

協働の精神を示す熊建会のスローガン。各現場に掲示されています



左/通路の安全性をチェック。また、この現場では型枠の一部をプラスチック型枠にして外光を採りいれています 中/パトロール側も施工側も、熊谷組も専門工事業者も、ものづくりへの真剣なまなざしは変わりません 右/各自が撮影した現場画像をプロジェクターで投影しながら検討会

(関西支店建築事業部)がiPadに取り込みプロジェクターで投影。参加者の発言に沿って、印をつけたり文字を書き込んだりしていきます。実はこのiPad、現場パトロール用に熊建会が提供したもの。「以前ノートパソコンを使っていたときに比べ、より早くわかりやすく伝えられるようになりました」と河本副部長。

熊建会の櫻木社長は、「パトロールは現場に携わる我々にとって勉強の機会」と言います。「指摘を共有することで、技術面でも安全面でも基本事項が一人ひとりに徹底され、具体的な改善が進みます。回を重ねるごとに意識が常識となり、体が自然に動くようになる。らせん状にレベルアップしていくのです」。

つくり手の誇りとやりがい お客様の満足につながる

この日の指摘で櫻木社長が目にしたのは2点。

一つは、コンクリートのひび割れ位置をコントロールするための目地棒についての指摘です。「ある場所の目地棒について、本数をもっと減らしても効果は変わらないのではないかという指摘でした。かなり勉強しているから言える内容です」。

もう一つは、二次下請の若手職長から業界への率直な意見が出されたこと。「単価が安い割に高度な仕事を要求され、モチベーションは上がりず人材は育たない、こうした現状を業界全体で打開しよう、と言ってくれた。建設業に誇りを持っているからこそ出た発言。その意味

でうれしいです。熊建会には熊谷組と二次・三次下請業者との橋渡しという役割もある。作業員の皆さんが働きやすいよう最大限にバックアップしていきます」。

櫻木社長は、協力会社の立場でコストを下げる一つの方法として手戻り、つまり一度つくったものを壊してやり直すのを減らすことを挙げ、「これは当然、品質とも連動します」。

櫻井秀則品質管理グループ部長(関西支店建築事業部)も「手戻りが減れば生産性が上がり受注も増える」として、「どんな発注者の要求にも応えられる高い技術をどの協力会社も持ってほしい。現場パトロールをして、結果を各社がフィードバックすることはそのために非常に有効です」と話します。

熊建会や熊土会のような、協力会社間の横のつながりがある建設会社は業界でも多くはありません。熊谷組では、「協力会社と協働する上で会の役割はとても大きい」(常深所長)、「熊谷組の若手社員を現場パトロールに参加させ勉強させたい」(櫻井部長)と高く評価しています。互いを「パートナー」と呼ぶ熊谷組と各協力会社。誇りとやりがいをもって協働することでよりよいものづくりが実現し、ひいてはお客様の満足につながっているようです。

■ 工事概要

工事名：(仮称)プレミスト堺筋本町新築工
設計・監理：株式会社現代総合設計
施工：株式会社熊谷組
用途：分譲マンション(RC造、地上15階)

熊土会(土木)との協働

【シールド設備事前検討会】



シールド掘進をより効率的に行うため、坑外および坑内の機械設備の能力・仕様、配置計画について、熊谷組と協力会社で徹底した事前協議を行い、施工計画の基本とする。

【明かり分科会】



協力会社の明かり*会員が参加し、明かり現場を視察した後、「コンクリートの品質」をテーマにこれまで会員が現場で培ってきたコンクリートのノウハウについて意見を交換する。

【協力会社による自主検査】



協力会社が熊谷組に製品を引き渡す前に自主的に検査を行い、その結果を熊谷組社員の立会いのもとで確認する。

熊建会(建築)との協働

【躯体部会】



躯体協力業者による当初検討会を実施。躯体5役*で設計図書や現場の特性で考慮した項目を確認。今後現場で取り組む具体的な内容を現場の社員と一体となって決めていく。

【コンクリート打設検討会・反省会】



躯体協力業者によるコンクリート打設後の出来形を確認。その後反省会を開催し、今回打設の問題点について検証を行う。問題点については、次回の打設に反映させる。

【仕上げ部会】



仕上げ協力業者による品質パトロールを開催。着工前に開催する仕上げ工事の検討会にて決められた自主検査や各所の納まりについて、現場に反映されているかを確認。

*明かり：トンネル工事と対比して用いられる言葉で、全般的に屋外の明るい場所で行う工事の総称(宅地造成工事、橋梁工事など)。

*躯体5役：躯体工事において主要工種である「鉄筋」「型枠」「蕪・土工」「左官」「電気・設備」の5業種のこと。

環境保全の取り組み

環境理念・環境方針のもと、「熊谷組グループEアクションプラン」を策定。エコ・ファースト企業として美しい地球を次世代に継承することを経営課題の一つに掲げ、全力で環境保全活動に取り組んでいます。

※詳細な環境報告については、WEB版「環境報告書」で公開します。
<http://www.kumagaigumi.co.jp/csr/kankyo/ga2012/2012ga.pdf>
 ※環境保全活動数値データの対象工事：熊谷組単独工事と熊谷組が幹事会社であるJV工事

熊谷組 環境方針

環境理念

人間と地球を知り、過去と現在と未来を見つめ、美しい自然との調和を図りつつ、ゆとりと潤いのある環境を創造する。

我々は、土木並びに建築分野の設計から施工、またアフターケアに至る業務に携わる企業として、環境法規制及びその他の要求事項を遵守することはもとより、今や地球的規模に及んでいる環境への影響に対して、持てる技術を最大限に発揮し、努力し、環境への負荷を低減するとともに汚染の予防を図る必要がある。それは豊かで美しい地球を子孫に継承することが企業市民としての役割であり義務だからである。

我々と協力会社は一体となり、これら環境問題の解決に向けて取り組んでいく。

以下に重点的に取り組む活動を示すとともに、それらについては目的および目標を設定し、実情に即すべく見直しを行う等、継続的改善に努める。

重点実施事項

1 全体的な取組み

- 二酸化炭素排出の低減 : 地球温暖化の防止
- グリーン購入の推進 : 天然資源の保護
- 3Rの推進 : 廃棄物の削減
- 生物多様性配慮の推進 : 生態系保全を考慮
- 環境に配慮した技術の推進 : 環境保全、自然再生、環境創造を考慮
- 環境に配慮した設計の推進 : 建造物のライフサイクルを考慮
- 社会・環境貢献活動の推進 : 地域に密着した活動

2 本社固有の取組み

- 環境配慮技術の開発 : 持続可能な発展への寄与

3 支店固有の取組み

- 支店固有の取組みは、「環境行動計画表(支店共通)」に示す

2012年4月1日改訂

熊谷組グループ Eアクションプラン(第4版・骨子)

我々は「環境理念」の精神を自身のものとし、「環境方針」を達成するための行動を共通認識のもとで日々実行することにより、地球環境を保全し、更にはお客様に感動いただける企業形成を早急に実施する。これが、熊谷組グループが目指す「環境ナンバー1」の姿である。この実現に向け3つのプランを実行する。

2010年4月1日

プランI 環境経営の確立

- (1) 熊谷組グループの環境推進体制の強化
 1. 経営と環境の結びつきの強化
 2. 熊谷組グループ全体のEMS体制の強化
 3. リスク管理体制の強化
- (2) 長期ビジョンの策定

グリーン購入率：土木 21%以上/建築 15%以上

4. 生物多様性への配慮
生物多様性の保全および持続可能な利用の推進
5. 環境製品の提供
環境配慮型技術開発の推進：技術の開発、適用30件以上

プランII 社員の環境モラルの向上

- (1) 環境教育の徹底/工夫による全社員の環境意識の向上
- (2) 経営層自ら環境保全/社会貢献に向けた行動の徹底
- (3) 環境に関する社内制度の充実

プランIII 環境技術の保有

- (1) お客様に喜ばれる低コストで環境配慮が実現できる独自の技術開発
- (2) 開発した環境技術の普及
- (3) お客様に喜ばれる環境配慮設計の推進

1. 地球温暖化防止対策 (1990年度比)
(2020年度目標)
CO₂排出量：出来高あたり50%、総量87%削減
(2050年度目標)
CO₂排出量：出来高あたり80%、総量95%削減
2. 循環型社会の構築 (2020年度目標)
全ての作業所でゼロエミッション(当社自主基準)を達成
3. グリーン購入の推進 (2020年度目標)

※2012年度も上記、熊谷組グループEアクションプランを継続して推進しています。

熊谷組の「エコ・ファーストの約束」

2010年5月31日、熊谷組は建設業界で初めて「エコ・ファースト企業」に認定されました。



「エコ・ファースト制度」とは 2008年4月に環境省が創設した「業界のトップランナー企業の環境保全に関する行動を更に促進していくため、企業が環境大臣に対し、京都議定書の目標達成に向けた地球温暖化対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束する制度」です。



エコ・ファースト企業としての自覚を持ち、行動するために、「エコ・ファーストの約束」内容を記載した名刺大のカードを作成しました。全社員が常に携帯しています。

2011年度環境目標と実績評価および2012年度目標

熊谷組単体(海外除く) 【評価】○：達成 ×：未達成 -：現状把握中のため評価対象外

環境目的		2011年度目標	2011年度実績	評価	2012年度目標	
設計	評価性のある環境配慮設計の推進	1) CASBEE評価の実施：実施率100%	1) 実施率100%	○	CASBEE評価	
		2) CASBEE-DRの実施：実施率100%	2) 実施率100%	○	1) Aランク評価：対象物件の52%以上	
		3) Aランク評価：対象物件の50%以上	3) Aランク評価：52%	○	2) BEE値2.2以上：対象物件の13%以上	
		4) BEE値2.0以上：対象物件の10%以上	4) BEE値2.0以上：13%	○	3) Sランク評価：1件 [Sランク=BEE値3.0以上]	
		5) Sランク評価：1件 [Sランク=BEE値3.0以上]	5) Sランク評価：0件	×		
施工	CO ₂ 排出の削減	土木	47.8 t-CO ₂ /億円以下	71.2 t-CO ₂ /億円	×*1	69.0 t-CO ₂ /億円以下
		建築	12.5 t-CO ₂ /億円以下	20.9 t-CO ₂ /億円	×*1	19.9 t-CO ₂ /億円以下
	混合廃棄物発生量の削減<ゼロエミッションの推進>	土木	1.16 t/億円以下	1.51 t/億円	×	0.79 t/億円以下
		建築	7.32 kg/m ² 以下	5.64 kg/m ²	○	7.10 kg/m ² 以下
	グリーン購入の推進	土木	グリーン購入率*2 16.5%以上	14.8%	×	グリーン購入率*2 17.0%以上
		建築	グリーン購入率*2 10.5%以上	11.2%	○	グリーン購入率*2 11.0%以上
生物多様性配慮の推進		・チェックリストによる現状把握 ・良好事例の収集、展開	・チェックリストによる現状把握 ・良好事例の収集、展開	-	・チェックリストによる現状把握 ・良好事例の収集、展開	
オフィス	CO ₂ 排出の削減(電気使用量の削減)	2010年度実績の7.6%削減(4,777千kWh以下)	25.7%削減(3,840千kWh)	○	2010年度実績の26.7%削減(3,790千kWh以下)	
	グリーン購入の推進	文房具のグリーン購入率*2 95%以上	95.5%	○	文房具のグリーン購入率*2 95%以上	
	環境社会貢献活動の推進	環境社会貢献活動の実施・参加 2回/年以上	10回/年	○	環境社会貢献活動の実施・参加 2回/年以上	

*1 土木においてはCO₂排出量の比率が多いトンネル工事、建築工事においては解体工事が多くなったことが影響し、目標値を超越した。

*2 グリーン購入率：【施工】工事出来高1億円に占めるグリーン調達品目購入費の割合、【オフィス】文房具購入費に占める環境に配慮した文房具の購入費の割合。

事業活動と環境への影響

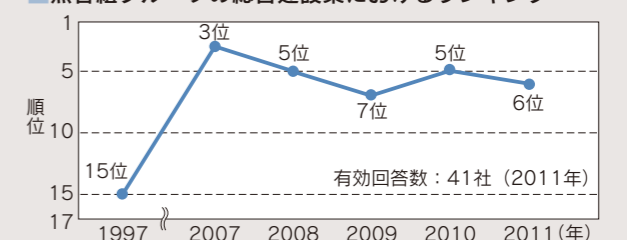
熊谷組単体(海外除く)。数値は2011年度実績。



「環境経営度調査」で総合建設業6位

環境経営度は、温暖化ガスや廃棄物の低減などの環境対策と経営効率の向上をいかに両立しているかを総合的に評価したものです。環境経営度調査は、「環境経営推進体制」「汚染対策・生物多様性対応」「資源循環」「製品対策」「温暖化対策」の5つの項目についての各社回答に基づき、日本経済新聞社が評価を行っています。

熊谷組グループの総合建設業におけるランキング



熊谷組グループの環境保全活動

熊谷組グループでは、環境マネジメントシステム（EMS）または簡易EMSを運用し、グループ全体で環境負荷の低減に努めています。

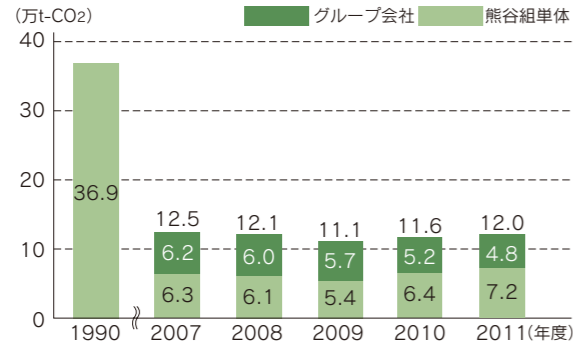
環境実績

【国内】

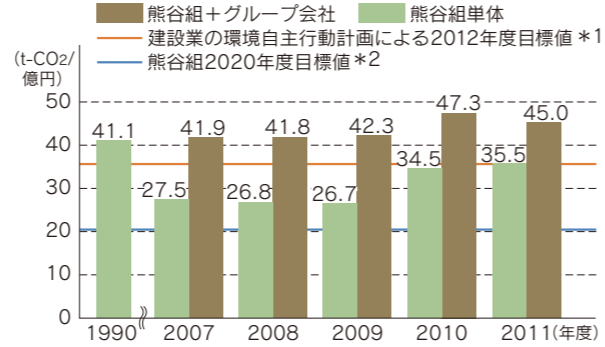
●CASBEE評価 2011年度：評価件数38件、うちAランク20件（取得率52%）、B+ランク18件（B+以上取得率100%）、全体平均BEE値=1.4

●CO2排出量（施工+オフィス）

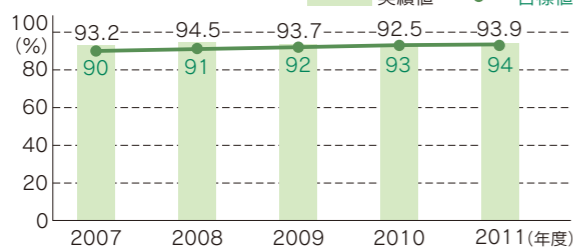
【総量】



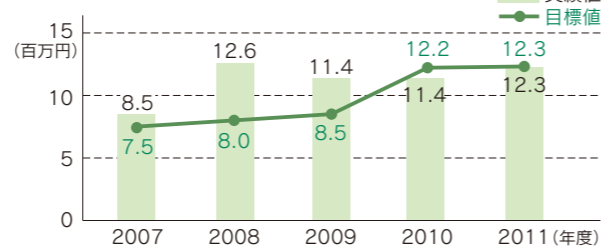
【原単位】



●リサイクル率（施工）



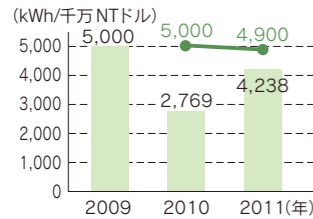
●グリーン購入費（施工）



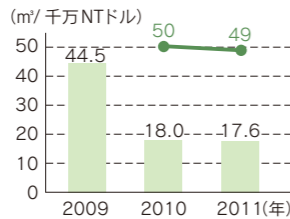
*1 13%削減（1990年度比）。熊谷組単体にあてはめると35.7t-CO2/億円 *2 20.5t-CO2/億円（熊谷組グループEアクションプランより算定）
*3 2010年度以降の実績値は、グリーン調達品目の価格変動の影響を相殺しています。

【海外：華熊營造股份有限公司】

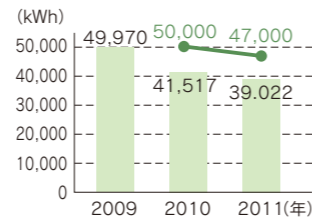
●電気使用量（作業所）



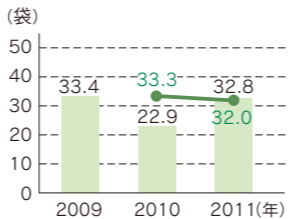
●廃棄物発生量（作業所）



●電気使用量（オフィス）



●廃棄物発生量（オフィス）



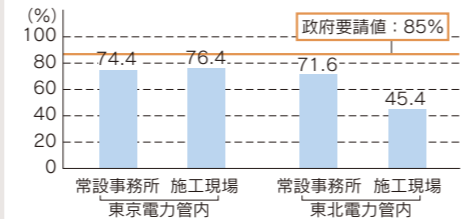
●華熊營造股份有限公司では2010年4月にISO14001認証を取得し、環境保全活動を推進しています。
●作業所に対し環境保全活動アンケートを2009年3月より実施しています。（計4回実施）

●アンケート対象者：日本人社員、ローカルスタッフ
●アンケート項目：①アイドリングストップ活動②現場事務所の節電活動③廃棄物の分別状況④生物多様性配慮について

夏季の節電対策

2011年度夏季の節電対策は東京電力管内と東北電力管内において、政府より最大使用電力15%削減が要請されました。当社はさまざまな削減活動を実施し、政府の要請を大幅に上回って達成しました。

■2011年度夏季最大使用電力(2010年度比)



主な環境保全活動

設計の取り組み

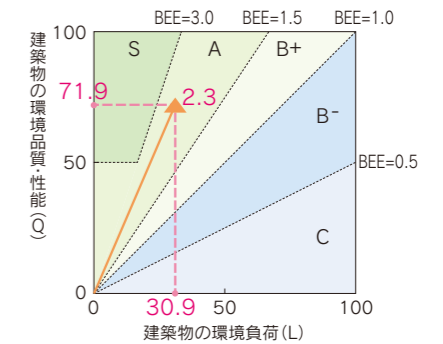
CASBEE評価を用いた環境配慮設計のさらなる向上と継続を目指して

熊谷組の設計部門は、すべての設計物件に対してCASBEE評価を導入しています。第三者的な評価軸を持ったCASBEE評価を実施することにより、環境配慮設計に対する評価と取り組みをより明確にするとともに、継続して取り組むことを目的としています。

2012年度の目標としては、評価物件の52%以上を「BEE値=1.5以上」（Aランク）、評価物件の13%以上を「BEE値2.2以上」とし、総合的なレベルアップを目指しています。

【事例】(仮称)白山5丁目計画

BEE値=71.9 / 30.9=2.3



CASBEEとは

建築物の総合環境性能評価システム(Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency)のことで、環境効率という概念を、建築物の環境性能効率へ発展させたものです。建築物の環境品質・性能(Q)と建築物の環境負荷(L)の比(BEE=Q/L)で表し、「S(素晴らしい)」「A(大変良い)」「B+(良い)」「B-(やや劣る)」「C(劣る)」の5ランクで評価します。

施工の取り組み

【CO2排出削減】

- ・毎年6月を「省燃費運転推進月間」と定め活動を推進
- ・メーカーと協働し、省燃費運転研修を実施
- ・支店におけるパトロールを強化し、現場での省燃費運転の実施状況を確認・推進



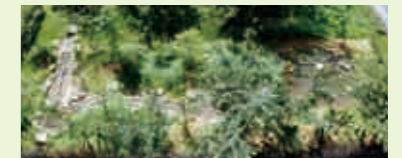
オフィスの取り組み

【CO2排出削減】

- ・節電活動の徹底
- ・昼休みの全消灯
- ・空調設定温度の徹底
- ・自動販売機の撤去
- ・給湯室の電気温水器の停止
- ・エレベーターの間引き運転
- ・照明の間引き点灯
- ・クールビズの期間拡大

生物多様性保全への挑戦

熊谷組にて従来から検討・技術提案等を実施しているビオトープに関して、環境アセスメントなどで用いられているHEP（ハビタット評価認証）の適用を考え、日本版の評価手法を確立している公益財団法人日本生態系協会とともに研究しています。さらに評価をもとにした最適な生息環境の創造技術・手法につなげていくことを目的として、今後の技術提案・設計に対する支援に役立てることを最終目的としています。



つくば技術研究所内ビオトープ

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞受賞

2011年度は3R推進協議会より会長賞を7件受賞しました。

古江トンネル作業所/大田ダム工事所/グランドメゾン宝塚清荒神作業所/橋本大山町作業所/圏央道江戸崎作業所/片柳学園蒲田キャンパス作業所/野田市小学校作業所



表彰式（2011年10月25日）

「大阪サステナブル建築賞」、「おおさか優良緑化賞」をダブル受賞

環境に配慮した「パークシティ南千里丘」

〈大阪サステナブル建築賞 優秀賞〉

各住戸の系統別エネルギーの“見える化”、さらにそのデータを省エネ研究基礎データとして蓄積できるシステムが全国的にあまり例を見ないものであり、極めて高い評価を獲得できました。

〈おおさか優良緑化賞 大阪府知事賞〉

屋上緑化等を利用した住民のふれあいの場の提供、雨水再利用、浸透性舗装材の採用、敷地周辺の公開空地を緑豊かな環境共生の街として計画したことなど、周辺地域にも配慮した建物となっていることが評価されました。



摂津市駅 パークシティ南千里丘



屋上庭園「空の里庭」

発注者：三井不動産レジデンシャル株式会社
計画地：大阪府摂津市
用途：共同住宅

活き活き職場

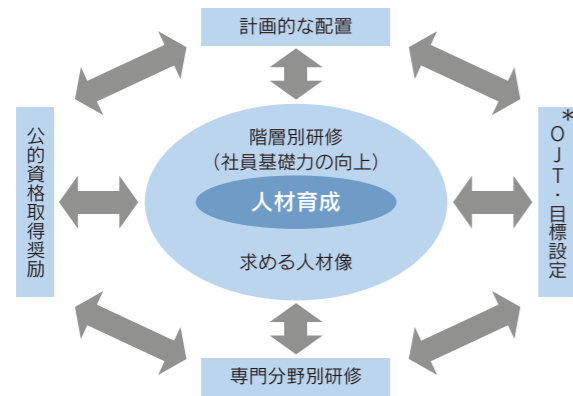
従業員が活き活きと元気に、能力を十分に発揮できる職場環境の整備は、熊谷組の発展の基盤です。教育・人事制度の整備、心身の健康のサポート、ワーク・ライフ・バランスの実現などに力を注いでいます。

「ものづくり」に愛着と執念を持つ、活き活きとした人材育成への取り組み

人材育成

企業は「人」であると考えています。華々しさはなくても、「ものづくりに愛着と執念を持ち、誠実さをもって仕事に取り組む人」、そんな人こそ、私たち熊谷組の求める人材です。このような人材の育成を目指して、さまざまな取り組みを実施しています。

熊谷組の人材育成体系



* On-the-Job Training：職場内訓練。

1. 階層別研修の実施

時間、場をとともにすることで、「熊谷組の姿、社員のあり方」のイメージを共有し、熊谷組社員としての基礎力の向上を図っています。

2011年度実施の主な階層別研修と受講者数

入社時研修	33名
若手フォローアップ研修	33名
初級管理者研修	58名
上級管理職研修	20名



2. 計画的な配置の実施

キャリアの形成や幹部の育成を視野に入れ、適正かつ計画的な人員配置を実施しています。

3. 専門分野別研修の実施

社員各々の専門性を高めるため、土木・建築・営業などの専門分野別の研修を実施しています。

4. OJT・目標設定の実施

日常業務を通じた着実な育成を図るため、OJTと「目標設定」「達成度確認」の面談を実施しています。

5. 公的資格取得奨励の実施

社員のスキルアップのための自己啓発を支援するため、技術士、一級建築士などの公的資格の取得奨励を行っています。

社員の意欲に応える2つの表彰制度

優れた仕事を正しく評価し、社員の意欲向上と職場の活性化を図るため、2つの表彰制度を定めています。

【定期表彰】

規程に基づき定期的に行われる表彰制度で、対象となる期間に優れた成果を上げたものを表彰しています。分野は、「模範社員」「発明考案」「業務改善」「営業」「設計」

全工期約42万6千時間無災害達成を喜ぶ

2012年3月23日 社長特別表彰を受賞
北海道支店 新茂辺地トンネル作業所 所長
(現 国道45号 釜石・山田道路工事作業所 所長) **堂藤 和雄**

私自身が道産子なので、東京オリンピックの年に北海道新幹線が走るのをテレビで見て、「いつかは北海道新幹線を」という強い思いがありました。今回、北海道新幹線工事に携わることができて、非常に感慨深い思いでいっぱいでした。

足掛け5年に及ぶ工事で最もうれしかったのは、(トンネル貫通の瞬間の無上の喜びはもちろんですが) 全工期約42万6千時間無災害を達成できたことです。毎月の安全集会、災害防止協議会、週間工程打ち合わせ、毎日の作業打ち合わせ、職員の朝礼夕礼の確実な実施、統責者・安全当番者による午前・午後のパトロールでの一人ひとりへの声掛けの励行などで、新入社員・JV職員を含む全職員が常に安全知識向上に努めた日々の積み重ねが、この結果に繋がったと思います。

また本坑トンネル掘削開始からわずか200mの地点での岩盤崩落など、さまざまなトラブルもありましたが、本社・支店の支援を受けて乗り越えることができました。改めて熊谷組の粘り強さと品質へのこだわり、強い組織力を実感しています。これからも精進し、チームが変わっても「和」を重んじて、諦めないこと、逃げないこと、チェックは何度でもすること、決断の勇気を持つこと、仲間を大切にすることをチームの皆に伝えていきたいと思っています。



「施工」「技術論文」「安全衛生」「災害防止等」「CS」「環境」など多岐にわたっています。2011年度は社長表彰36件を含む141件の表彰を行いました。

【特別表彰】

よりタイムリーな表彰を目的として行われる、社

長・本部長・支店長による表彰です。対象は、「地域貢献、社会貢献、技術貢献などによって社名の高揚、業績向上に大きく貢献したと判断されるもの」としています。2011年度は13件の表彰を行いました。

個性ある多様な人材とともに

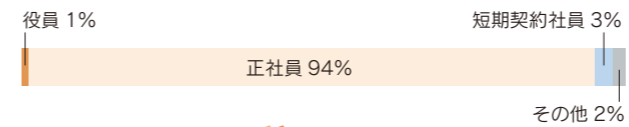
雇用の現状

社員数および年齢・勤続年数の平均推移

年度	社員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)
2007	2,542	43.4	19.9
2008	2,596	43.6	20.1
2009	2,502	43.5	20.0
2010	2,354	43.9	20.4
2011	2,240	44.0	20.5

※社員数は就業人員数です。

人員の構成 (2012年3月31日現在)



高齢者雇用の状況

「高齢者等の雇用の安定に関する法律」への対応も踏まえ2006年に制定した「シニア社員制度」により、65歳までの雇用を前提とした制度の運用を継続しています。

社会的に要求されている高齢者の雇用拡大を推進していくとともに、高齢者の技術力、営業力を途切れることなく次世代に継承し、社員および組織の活性化を図ることを目的としています。

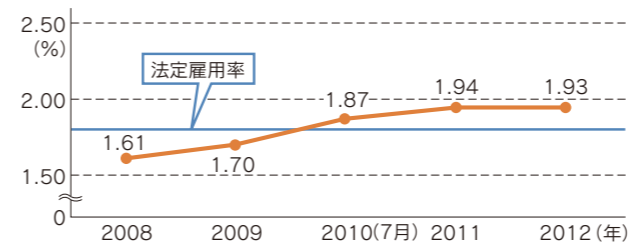
2012年4月現在、50名の定年退職者を再雇用しており、今後も雇用を継続していきます。

障がい者雇用

障がい者の雇用は、企業の社会的責任と考え、雇用の促進を図っています。

2009年に当面の目標としていた法定雇用率(1.8%)を達成し、2012年4月現在には1.93%まで改善しています。今後も障がい者の方々が働きやすい環境整備や職域の開発などを進めていきます。

障がい者雇用率の推移



※2010年以外はすべて4月時点の数値

活躍する女性

多様な人材による新しい価値の創造、幅広くかつ高い質の労働力の確保、女性が活躍することによる男性社員への刺激から生まれる生産性の向上などを目的とした「ポジティブアクション」を推進しています。

女性の新卒採用の比率は2006年度の19%から2011年度は40名中14名の35%まで上昇しました。従来からの建築系の採用に加え、土木系では近年毎年1名採用。事務系では一般職からの登用を含む4名が活躍しています。また、女性管理職も現在は6名となり、作業所、内勤と各々のステージで組織を取りまとめています。

今後も社員一人ひとりの個性を尊重し、新たな仕事に挑戦でき、さらに活躍できる場を提供していきます。

大きな「ものづくり」の一端を担う喜び

首都圏支店 成子天神社計画作業所 主任 **大田 めぐみ**

入社当初から施工担当・現場勤務を希望していました。今は成子天神社計画の分譲マンション部分で、施工図・製作図チェックや施工要領書の作成など、主に工務を担当しています。

仕事の物量が多く、拘束時間が長くなりがちなので、業務に対しては優先順位を決め、スピードアップと無駄の削減を目標にしています。また、職場の雰囲気は個々の士気に大きく影響するため、情報を共有できる風通しのよい人間関係を心がけたいと思っています。女性であるがゆえに困難なことなど特にはありませんが、今、一番難しいと感じるのは、「いかに意図した方向へ人に動いてもらうか」ということで、これは今後も続く課題だと思っています。

この仕事の面白さは、事前の計画や段取り次第で、経過・結果が良くも悪くもなること。また建物引渡しに至るまでの間に、非常に多くの組織や人々が関わり、時間と労力をかけて最終的に一つの物件を完成させていくわけですが、その一端を担っている実感できた時には、やりがいを感じます。



建設業は未だ男性社会のイメージが強いですが、男女を問わずにできる仕事や、女性の方が向いている業務は意外にたくさんあります。私自身は今後も継続して、建築施工管理に携わっていきたくて、実際に使用する人が喜んでくださる建物、自分自身が誇りをもって引き渡せる建物をつくっていきたくてと思っています。

「社員の健康は会社の明日を創る」——心身の健康をサポート

健康支援体制

当社では本社医務室を中核として、常勤の産業医と保健師を配置し、全社およびグループ会社社員の健康支援に取り組んでいます。主な活動は、健康診断に基づく事後措置、休職者に対する職場復帰支援、健康教育・健康相談、職場巡視、健康情報に関するメール配信などです。

メンタルヘルス・過重労働対策に注力

メンタルヘルスクアを推進するため、新入社員への入社時・半年後の「セルフケア研修」、新任管理職への「ラインケア研修」を行っています。また、長時間労働によるメンタルヘルス不調や脳・心臓疾患の防止対策の一環として、健康チェックリストを活用しています。

受動喫煙防止対策の推進

職場の受動喫煙防止対策は、本社衛生委員会が社員へのアンケート調査を実施した上で推進しています。また、喫煙率の低下を図るため、2012年から卒煙社員等の紹介をはじめ、喫煙者の意識改革に取り組んでいます。

全国の職場を見てきました 産業医 清本 芳史

Q 産業医として、全国の職場を回って社員の働く状況などを見た感想は？

A 厳しい工程の中で、時には昼夜を問わずに頑張り抜く姿を見て、敬意を感じるとともに、産業医として、社員の皆さんが誇りを持って仕事に集中できるようにバックアップしていきたいという思いを強くしました。

Q 毎月、健康に関するテーマを設けてメールマガジンを発行していますが、心がけていることは？

A 忙しい社員の皆さんが、少しでも健康情報に触れられるよう、「熱中症」「インフルエンザ」「うつ病」「喫煙」という重要なテーマを1枚でわかりやすく表し、同じテーマでも視点を変えて飽きないように心がけています。

Q 産業医として、これからやりたいことは？

A 協力会社の皆さんも巻き込んで、建設業全体の健康度の向上を目指したいと思います。作業員の皆さんから「熊谷組と一緒に働いて、健康をより意識するようになった」と言われるようになってほしいですね。



ワーク・ライフ・バランスの実現を推進しています

仕事と家庭・社会活動の両立ができる環境を整えるため、さまざまな施策を実施しています。

出産・育児や介護を支援する制度

出産・育児や介護をする社員を支援するためのさまざまな制度を導入しています。育児休業については、出産した女性社員の100%が利用しています。また、「次世代育成支援対策推進法」による「行動計画」に則り、社員からの要望を反映させて、出産・育児と仕事の両立のしやすい環境の実現に向け検討・改善を進めています。

2010年3月には、育児休業開始日から14日間を有給扱いとする特別措置を導入しました。

育児休業制度利用者数推移

年度	利用者(人)	うち男性(人)
2009	10	3
2010	12	1
2011	8	0

※男性の取得者のうち、2009年の1人は2008年4月から2009年2月まで導入していた短期育児休業（短期間の育児休業の場合は有給とする制度）の取得者。

職場復帰後の心配もなく安心して育児休業制度を利用しました

九州支店 建築部 稲光 知佳

私は、約1年半、育児休業を取得しました。保育園の入所が不可能だったため、予定よりも長く休業することになりましたが、以前と同じ部署で働けるという安心感のもと、子どもとの時間を過ごすことができました。



復帰後は、短時間勤務の制度も利用でき、保育園の送り迎えも時間内のできることで助かっています。慣らし保育期間中の休業も、育児休業の制度が利用できればもっとよかったと思います。産後も仕事を続けたいという方にはうれしい制度だと思います。

「子育てを支援する企業」として認定

2010年10月28日、熊谷組は次世代育成支援対策推進法第13条に基づき東京労働局長より「子育てを支援する企業」として認定されました。



次世代認定マーク「くるみん」

認定 熊谷組行動計画

- ①育児休業 男性取得者1名以上・女性取得率70%以上
 - ②育児を支援する観点から社員のニーズに合わせ短時間勤務制度等の改正を行う
 - ③有給休暇の平均取得日数を2004年度より上げる
- 現在、2回目の認定取得のため下記計画を実施中です。

熊谷組第2次行動計画

- ①育児休業 男性取得者1名以上・女性取得率80%以上
- ②配偶者出産時休暇の取得者5人以上

ボランティア支援制度

会社や社員個人が参加するボランティア活動への支援を通じて、地域社会の一員としての責務を果たすとともに、社員が企業の枠を超えて、多様な価値観と出会い、さまざまな経験を通して成長することを支援しています。

ボランティア支援制度を使って震災ボランティアに参加しました 国際支店 海外管理部 副部長 龍ヶ江 隆二

被災地の状況を毎日のようにテレビで見て、「何かしなくては」と、いてもたってもいられなく思っていたときに、復興支援ボランティア・バスツアーの募集案内を見つけ、思わず申し込みました。

2011年8月30日から9月1日まで岩手県大槌町の大槌川河川敷の小がれき・石の撤去、清掃作業を行いました。短い期間の作業でしたが、微力ながらも被災地の空気や匂いを感じながら復興支援に参加できたことの経験は、これからの人生の節々で生きてくるのではないかと実感しています。熊谷組でも社内研修の中にボランティア支援活動を積極的に取り込んで、もっと多くの社員の方にもこのような経験をしてもらえたら、活き活き職場の向上にも役立つのではないかと考えています。



打ち上げられた船はまだそのままでした

活き活き職場の気運の高まり

社員が自ら考え、会社の中でも、外でも、自発的に行動する場面が多く見られています。ここではその一部を紹介します。

職員会から届いた 福島原子力対策部事務所へのメッセージ

2011年11月25日、福島原子力対策部事務所の開所式が行われ、職員会の呼びかけにより作成された寄せ書きの入った社旗が、全国から届けられました。社旗は、福島で働く社員たちを激励するメッセージで埋めつくさ



全国から届いたメッセージ

れており、福島で勤務する社員を勇気づけ、心より励ますものとなりました。

古本回収で 東日本大震災で被災された方々を支援

職員会では一般社団法人チャンス・フォー・チルドレンが進めるブックスフォー・ジャパン*の趣旨に賛同し、社員から古本を集め、東日本大震災で被災された方々を支援しています。2011年の11月から2012年1月にわたって古本を収集し、その数は全国合わせて1,056冊、寄付金額にして26,233円になりました。

*ブックスフォー・ジャパン：古本のリユースを通じて社会貢献を行っている株式会社バリューブックと協力し、家庭で読み終わった書籍を活用することで、東日本大震災で被災された方々を支援する活動。

東日本大震災復興支援 ジョイントコンサートに社員が出演

2012年3月3日、仙台市カトリック仙台司教区センター（元寺小路教会）の大聖堂で、マトゥーリ男声合唱団と男声合唱団いずみオッチェンコールの東日本大震災復興支援ジョイントコンサートが開催され、当社からマトゥーリに所属する2名が出演しました。当日は会場に約300名が来場し、当社東北支店からも応援の社員が駆けつけました。

最後には震災の記憶が消えることがないようにと作曲した「忘れない、忘れまい」を熱唱しました。



歌を通して会場が一つになりました

KGカフェで非日常のひとつ

2011年1月、「活き活き職場」を進めるために、互いの持つ考えの多様性を実感しながら共感していく場所「KGカフェ」を開始。業務終了後、さまざまな部署、立場の人が集まり、ワールドカフェ*の手法でさまざまな意見が交わされています。2012年4月には、「心ひとつにして働くこと」をテーマに実施しました。



*ワールドカフェ：カフェのような空間で、リラックスした会話とプロセスを設定し、気づきや共感とともに創造的なアイデアを生み出していく話し合いの手法。

議論にも思わず熱が入ります



ワークショップ。次々に出てくるアイデアで白い模造紙が埋められていきます。左ページ写真中央はCSR推進室千葉副部長

特集 クマさんの環境教室

次世代を担う子どもたちへの環境学習を支援しています



建設業を営む熊谷組にとって、地球環境の保護と次世代への継承は重要な使命です。当社は2002年以来、小中高校生を対象とした環境学習プログラム「クマさんの環境教室」を行ってきました。建設業の特性を活かした独自の教育支援活動は、「第2回キャリア教育アワード」優秀賞を受賞しています。

「自ら考え、自ら行動する」力を育む

「今日は皆さんに『街のデザイナー』になってもらいたいと思います」

2012年6月、東京都立新宿山吹高等学校の教室。熊谷組CSR推進室の千葉富雄副部長が笑顔で説明を始めました。

当社がCSR活動の一環として小学生への環境学習を開始したのは2002年。以来11年にわたって、地域のNPO法人と連携しながら、小中高校生を対象に環境学習プログラム「クマさんの環境教室」を行っています。小学校低学年にはマイバッグづくり、高学年にはゴミゼロ運動や実験を通じた環境学習、中高生には「街のデザイナー」授業と、幅広い年齢層を対象に、それぞれの年代に応じた体験型プログラムを実施。2012年6月現在までの受講者数は延べ900人を超えました。

『クマさんの環境教室』の企画では、環境問題を子供たちにどのように伝えれば理解されるか悩みました。シンプルでハッと驚く実験を行うなど、児童、生徒が体験しながら楽しく学ぶとともに、単に環境の大切さを伝えるだけでなく、社会人として必要な『自ら考え、自ら行動する』ための基礎づくりとなるよう独自に工夫しました」と千葉副部長は語ります。

今日の「街のデザイナー」授業は、「クマさんの環境教室」のオリジナルプログラムの一つで、当社が2010年に開発。「持続可能な社会」を実現する環境配慮型の学校・街を自由な発想で設計してみようというものです。

自由な発想が飛び交うワークショップ

まず当社担当者が環境問題と持続可能な社会について説明。ここで、地球温暖化の進行を止める「低炭素社会」、生物多様性を実現する「自然共生社会」、資源を有効活



左/発表では、デザインに表しきれなかったことも詳しく説明 中/デザインを見ながら当社社員が講評。「地上1階地下7階のドーナツ型デザインはざん新で素晴らしい。今度熊谷組で造ってもいい!？」 右/最後に技術研究所社員による当社環境配慮技術の紹介。今日のテーマは「ピオトープ」でした

用する「循環型社会」という3つの社会を明確にします。

生徒は3～4人ずつのグループに分かれ、「街のデザイナー殿」と書かれた依頼書を渡されます。そこには、前述の3つの社会に配慮して、『「持続可能な社会」を実現する学校と街』をデザインおよびプレゼンテーションしてほしいという内容が記されています。学校に隣接する寺院や工場を活用することも条件の一つです。

グループごとにリーダーを決めたら、ワークショップの始まりです。

ほどなく「ソーラーパネルをつける?」「農地を作ろう」と具体案が出始めます。「じゃあ廃熱も利用しよう」。

一つのアイデアに触発され、新しいアイデアが生まれます。笑いが起こり、椅子から立ち上がった場所を移動したりと体も動き始めます。白地図をにらみながら口々に発言。教室は急ににぎやかになってきました。

今日考えたことが未来につながる

ワークショップ開始から約1時間後、全員による発表が始まりました。当初、発表するのはリーダーだけでしたが、それだと他のメンバーの発表能力の向上や達成感の共有が不十分だと分かり、この形になりました。

さて、最初のグループがデザインした学校はその名も「都立吹き抜け高校」。校舎はドーナツ型で地上1階、地下7階。採光のため中央部分が吹き抜けです。次のグループは「都立山吹憩い学校」。学校前に路面電車を走らせ、隣には海水と淡水の塩分濃度差を利用した発電所を設けました。3番目のグループは「都立エコロジーリンク高校」。水、熱、電力、肥料が周辺施設との間でやり取りされ、リンク（連結）しています。三者三様のデザインの中に、生徒10人の創造力が詰まっています。

終了後に感想を聞くと、真っ先に「楽しかった!」。続いて「学校や周辺をモデルに考えることで環境問題が身近になった」「いろいろな意見を聞いて面白かった」。

そして、「対策がたくさんあることに驚いた。今日考えたデザインがいつの日か実現したらいいな」。当社の願いを生徒たちはしっかり受け止めてくれたようです。

これらの活動が評価され、2012年1月、「クマさんの環境教室」はキャリア教育に取り組む企業等の活動に対して与えられる「第2回キャリア教育アワード」（経済産業省主催）で地域密着型キャリア教育部門優秀賞を受賞しました。「学校と綿密な調整を行い授業計画を立てており、また環境教育のプログラムとして優れている」との評価をいただいています。



「第2回キャリア教育アワード」受賞式

2011年度に実施した「クマさんの環境教室」

新宿区立津久戸小学校2年生に環境学習

2011年7月1日、津久戸小学校の家庭科室にて、「もったいない!」をテーマに、レジ袋の使用が石油のムダ遣いになることを学んだあと、エコバッグに絵を描き、マイバッグを作りました。そして、これからはレジ袋をできるだけ受け取らないことを誓い合いました。



こんなにレジ袋使ってるんだ!

新宿区立津久戸小学校4年生に環境学習

2011年7月4日、本社にて、グループ会社のガイアートT・Kと協力して、当社作成の「クマさんのエコブック」を使った地球温暖化、生物多様性についての講義、氷と二酸化炭素を使った温暖化の実験、保水性舗装の効果の体験、屋上緑化の見学などの体験学習を行いました。



みんな実験結果に興味津々

練馬区立開進第二中学校生徒に現場見学・環境学習

2011年9月8日、建築作業所の現場見学、本社に設置したホタルピオトープ、屋上緑化を見学したあと、3つの社会（低炭素社会、自然共生社会、循環型社会）を学習し、環境に配慮した、自分たちの学校や街を計画するワークショップ「街のデザイナー」授業を行いました。



最後はグループで発表

「まちの先生見本市」in新宿区立落合第四小学校に参加

2012年1月28日、新宿区内の事業者・環境団体が行う環境学習イベントに第1回から11年連続で参加。子どもたちによるエコバッグ作成のほか、技術研究所による「蛭の幼虫」、グループ会社ガイアートT・Kによる「保水性舗装」などの展示を行いました。



楽しいエコバッグづくり

熊谷組事業概要 (2012年3月31日現在)

社名：株式会社 熊谷組
 創業：1898年1月 (明治31年)
 設立：1938年1月 (昭和13年)
 代表者：代表取締役社長 大田 弘
 資本金：133億円
 従業員数：3,531名 (連結)、2,240名 (単体)

事業内容

1. 建設工事の調査、測量、企画、設計、施工、監理、技術指導その他総合的エンジニアリング、マネジメントおよびコンサルティングならびに請負
2. 建設用資材、建設用および運搬用機械、車輛、船舶、その他これ等に附帯または関連する機械、器具の設計、製作、販売、賃貸ならびに関係工事の請負
3. 住宅事業ならびに不動産の売買、賃貸、仲介、管理および鑑定 その他

主要な営業所など

本店：福井市中央2丁目6番8号
 東京本社：東京都新宿区津久戸町2番1号
 北海道支店、東北支店、首都圏支店、名古屋支店、北陸支店、関西支店、中四国支店、九州支店、国際支店 (東京都)、技術研究所 (つくば市)

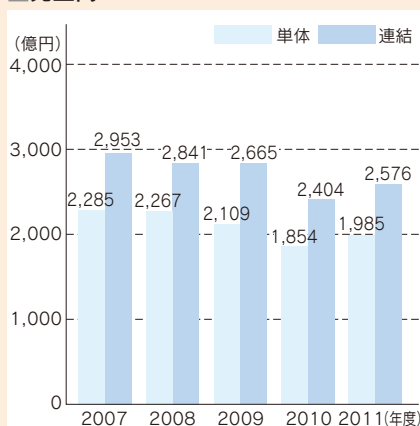
海外拠点

中国 (香港)、台湾、ベトナム、スリランカ

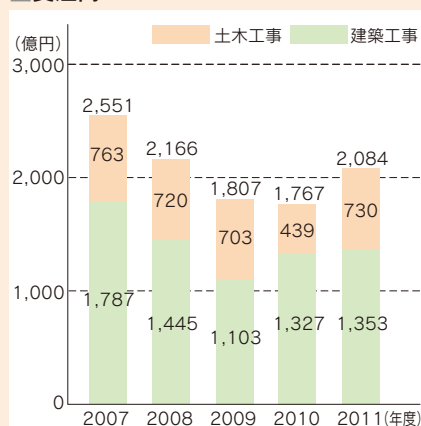
グループ会社

(株)ガイアートT・K、ケーアンドイー(株)、テクノス(株)、テクノスペース・クリエイツ(株)、(株)ファテック、(株)テクニカルサポート、シーイーエヌソリューションズ(株)、華熊營造股份有限公司

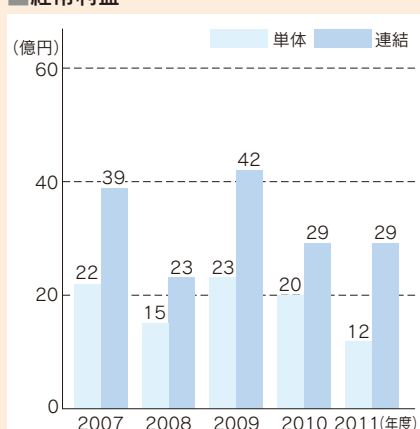
売上高



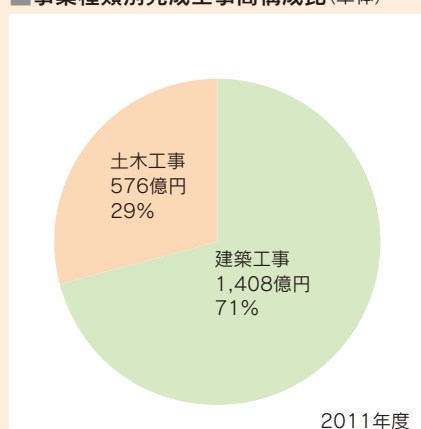
受注高 (単体)



経常利益



事業種類別完成工事高構成比 (単体)



編集方針

- 本報告書は、熊谷組グループのCSR*活動について、3つの視点「信頼」「誠実」「社員力」から紹介しています。
*CSR: Corporate Social Responsibilityの略。企業の社会的責任。
- 制作にあたっては、以下に示したガイドラインを参考にしています。
「環境報告ガイドライン (2012年版) (環境省)
ISO 26000:2010 Guidance on social responsibility 「社会的責任に関する手引」 日本規格協会編
「GRI サステナビリティ レポーティング ガイドライン2006」
- 本報告書は、WEB上でも公開しています。
<http://www.kumagaigumi.co.jp/csr/kankyoga2012/csr2012.pdf>
- 環境報告 (P21 ~ 24) については、本報告書に記載できなかった詳細な内容も含めて別途「環境報告書」としてWEB上で公開します。
<http://www.kumagaigumi.co.jp/csr/kankyoga2012/2012ga.pdf>

【対象期間】

2011年度 (2011年4月1日 ~ 2012年3月31日)

ただし、活動事例などについては、必要に応じ2012年4月以降の事例も紹介しています。

【対象範囲】

熊谷組 (本社および国内支店) およびグループ会社 (国内) : 数値データと活動事例の紹介

熊谷組 (海外) およびグループ会社 (海外) : 活動事例などの紹介

【対象分野】

環境側面、経済側面および社会的側面

【発行】

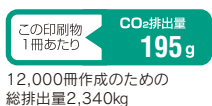
2012年7月発行

直近の報告書発行 : 2011年7月 ※第4回エコ印刷大賞 (継続優秀賞) 受賞
 次回の報告書発行 : 2013年7月 (予定)

- 表紙の絵は環境学習、ゴミゼロデーの清掃活動、ホテル鑑賞会などの環境保全活動を熊谷組と日常的に行っている津久戸小学校の児童が環境をテーマに描いた作品です。
- 表紙右下の「節電アクション」ロゴは、電力不足による停電の発生を回避するために、無理のない範囲で自主的な節電を行おう、という政府のキャンペーンのロゴです。エコ・ファースト企業 (P21) として、熊谷組は、徹底した節電を行い電力不足の回避に努めています。

お問い合わせは

株式会社 熊谷組 CSR推進室 熊谷組グループ CSR報告書事務局 〒162-8557 東京都新宿区津久戸町2-1
 TEL 03-3235-8114 FAX 03-5261-9665 URL <http://www.kumagaigumi.co.jp/> e-mail info@ku.kumagaigumi.co.jp



- この報告書は、製造時に排出されたCO2をカーボン・オフセット・ジャパンを通じてオフセット (相殺) しています。また、印刷に使用した電力 (527kWh) は、すべてバイオマス発電で発電したグリーン電力でまかなわれています。
- この報告書は、環境に配慮したグリーンプリンティング認定工場で印刷し、製版工程の中間材料が削減できるCTP (Computer to Plate) 方式と、VOC (揮発性有機化合物) 削減効果の高い「水洗浄性インキ」「水なし印刷」を採用しています。用紙は森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に使った「森の町内会」を使用しています。
- 不要となった際は、古紙回収・リサイクルに出してください。